

平成25年度
岡山市ESD・ユネスコスクール推進校

研究集録

「人・社会・自然などと自分とのつながり関心を持ち、
主体的に関わろうとする子どもの育成」
～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～



岡山市立第三藤田小学校



目 次

1	はじめに	1
2	研究概要	2
3	生活科・総合的な学習の時間で育みたい力	10
4	6年間のプロジェクトデザイン	11
5	各学年の指導案及び単元構想	
	1年生 生活科「あきとともだち」	12
	2年生 生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」	15
	3年生 総合的な学習「三藤のお宝をさがそう ～レンコンのひみつをさがろう～」	19
	4年生 総合的な学習「やさしいまちづくり ～人にやさしいまちづくり大作戦～」	22
	5年生 総合的な学習「プロジェクト八十八 ～20年後の藤田の米作りについて考えよう～」	25
	6年生 総合的な学習「幸せって何？」	28
6	成果と課題	31
7	ESDカレンダー	34
8	評価規準	40
9	過去の実践	42
10	おわりに	53

はじめに

平成23年度に藤田中学校区4校は、岡山市地域協働学校に指定され、はや3年が終わろうとしています。地域協働学校に指定される時期を前後して、藤田中学校区ではESDを視点とした「岡山型一貫教育」の研究開発に取り組んでまいりました。

平成25年度は岡山市「いきいき学校園づくり」事業にも指定され、その成果の一端を検証する貴重な機会を与えていただきましたこと、衷心より感謝いたしております。

研究発表会当日は、中学校区の諸先生方はもとより多数の皆様方にご参加いただき、たくさんのご指導ご助言をいただきながら、各校の実践をもとに研究協議・情報交換を深めることが出来ました。

さらに、岡山大学教師教育開発センター准教授高旗先生をはじめとし、岡山市教育委員会指導課の先生方には事前の研修から研究発表会当日まで、貴重なご助言・ご指導をいただきました。その研究の一端をまとめさせていただいたものが、本小冊子です。

ESDの視点に立った学習指導といえ、教科・領域を越えての、いわゆるクロスカリキュラムにおける位置づけでの実践がよく見受けられますが、本校ではその位置づけを「教科指導における育みたい能力」として実践・研究をしてまいりました。

様々な教科や領域で「習得した学力」を、総合的な学習の時間という「探求」の場で、「活用させていく」という「習得と探求・活用」のサイクルで捉えました。低学年の生活科にも当てはめて、研究を進めてきたところです。

さらに、一つの学年の一つの学習（単元）でのみ完結させるのではなく、小学校6年間を通じてのプロジェクトとして授業デザインをしてまいりました。それは、「いのちの学習」という大きなテーマの下、「宝物プロジェクト」と「幸せプロジェクト」でデザインすることで、「様々なつながりの中から自分を見つめ直し、生き方を考えていくことができる子」をめざしてまいりました。

今後本藤田地区では、保育園・小学校・中学校さらに県立高等学校との連携も大切にしながら、校種・教科を超えての授業公開や研究協議を行うことで、「学びの連続性」を大切にしながら、「岡山型一貫教育」を推進するべくESDの視点に立った教育活動を中心にすえ、中学校区協働で研究をさらに深化させていきたいと考えています。

最後になりましたが、岡山市ESD世界会議推進局の皆様方にも大変お世話になりました。今後とも、ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成26年3月

岡山市立第三藤田小学校長 矢 吹 憲 策

研究の概要

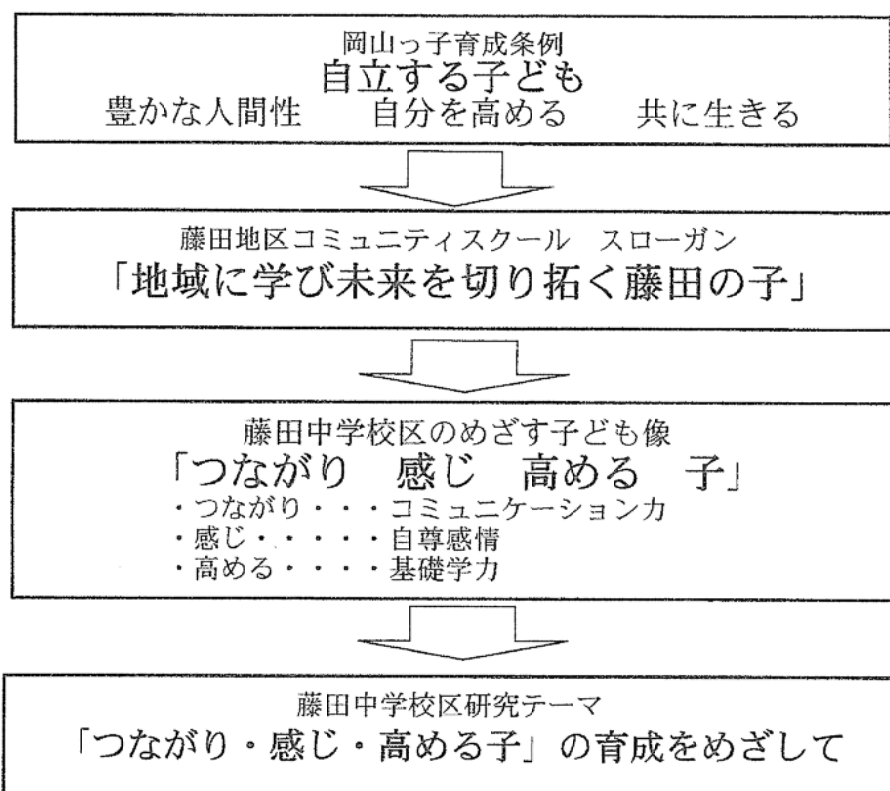
<研究主題>

「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、
主体的に関わろうとする子どもの育成」
～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～

1 主題設定の理由

(1) 藤田地区E S Dの概要

藤田地区のE S D活動は、2008年に岡山市環境保全課と藤田公民館からの呼びかけで、藤田地区E S D連絡協議会が発足したのがはじまりである。その後、各校の総合的な学習の時間の年間計画について情報交換し、中学校区共通のめざす子ども像やテーマを決めて取り組んできた。さらに一昨年コミュニティスクールの指定を受け、地域の方の思いや願いをとり入れたスローガンを設定し、取り組んでいる。



<藤田地区3小学校共通認識>

学年	共通テーマ	めざす子ども像（もたせたい考え）
3年	藤田のお宝をさがそう	藤田にはいいところやすごい人がいることに気づくことができる。
4年	ゴミって何？	人や自然を大切にする思いをもつことができる。
5年	藤田に農業は必要か？	藤田に愛着や誇りをもつことができる。
6年	幸せって何？	多様な価値観を知り、自分の生活を振り返ることができる。

(2) 藤田地区の現状と児童の実態

藤田地区は岡山市の南西部、明治時代に児島湾の干拓によって造成された農業地域である。稲作はもちろん、玉ねぎ・れんこん・なす・レタスなど野菜の栽培も盛んである。大変な苦勞をして干拓地を農地に開拓してきた歴史があり、地域の方々の郷土への愛着や学校に対する思いは大変強い。しかし近年では、高齢化が進み、商業施設の立地や宅地開発など農地の非農業土地利用化が進んできている。

子どもたちは、藤田の特色について尋ねられるとすぐに、農作物や自然を例にあげるが、地域の農業や自然に対する関心は薄い。また、本校は小規模校でクラス替えがないため、子どもたちにとって新しい人間関係を築くことは苦手である。そのため、学校内では主体的に活動することができるが、一歩外へ出ると、自分に自信がもてない子どもたちも多い。

(3) 研究主題について

★地域の現状

- 地域への思いの強さ
- 地域の方のたゆまぬ努力や工夫
- △農業問題
- △高齢化と少子化

★児童の実態

- 素直なおおらか
- 家の手伝いがよくできている
- 与えられた課題にきちんと取り組もうとする
- △自分で計画を立てて学習するのが苦手
- △地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が薄い
- △地域の行事への参加が少ない

E S D の視点に立った教育活動

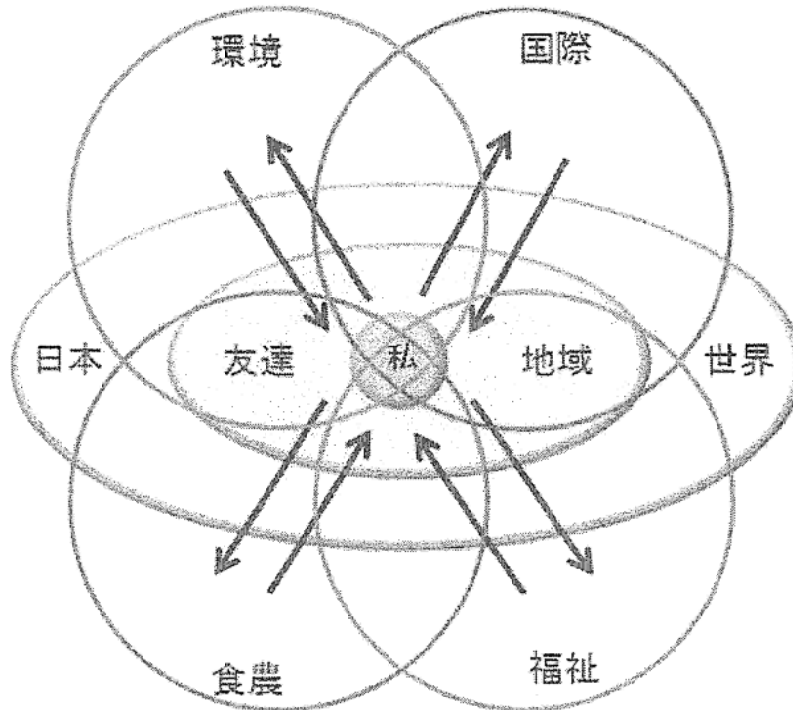
地域に学び，未来を切り拓く子
↓
持続発展可能な社会づくりの担い手

地域の方々が開拓し守ってきたこの藤田を、持続発展可能な地域としていくためには、藤田のよさをよく知り、藤田を愛する人を育てると同時に、E S D の視点に立った教育の推進が必要である。教科や総合的な学習の時間の目標や学習内容を、持続可能な社会作りの構成概念である「多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・郷土愛」の7つの要素に基づいて捉えた上で単元構想を設計し、実践することにより、E S D の視点に立った学習指導の展開が可能になると考えた。子どもたちは、この藤田の自然に囲まれ、地域の方々に支えられて生活している。「持続発展可能な社会づくりの担い手を育む」教育活動を行うことが、郷土を愛し、さまざまな「つながり」に気づき、自分を振り返ることのできる子どもを育てることにつながると考え、本主題を設定した。

2 研究内容

(1) キーワードは「つながり」

本校の研究主題にある「つながり」とは、環境、社会、経済などの現代社会の問題を、一人ひとりが自らの課題として捉え、すべてのことは今の自分の生活とつながっていることに気づくことである。そしてその課題に対して、今の自分にできることは何かを考え、実践していく中で、自分の生活を振り返ったり、自分の生き方について考えたりすることが、持続発展可能な社会をつくることにつながっていくと考えた。



(2) 4つのつながり

社会や自然などとのつながり

「人」「社会」「自然」など、現代社会の課題について追求していく中で、すべてのことは今の自分とつながっていることに気づき、生活を振り返ることができる単元づくりをする。

単元構想でのつながり

単元構想を
「ふれる」→「つかむ」→
「追求する」→「活かす」
の4つの段階で構成し、子どもの意識の流れを考えた授業を展開する。

人とのつながり

学習の中で、意見交流や生の声にふれること、体験活動を行うことなどを通して、いろいろな人の考えや生き方にふれる場面を設定する。

学年のつながり

各学年の単元を大きく2つのプロジェクトと捉え、子どもたちに育みたい思いや価値観を縦の系統で考える。

- ・「宝物プロジェクト」
- ・「幸せプロジェクト」

(3) 育みたい力

本校では、ESDの視点に立った学習指導で重視する7つの能力・態度を、「課題解決力」「実践力」「かかわる力」「コミュニケーション力」の4つに分類した。そして「課題解決力」「実践力」を「自分とのかかわり」、「かかわる力」「コミュニケーション力」を「他者とのかかわり」と捉えることにした。

<ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度>

①批判的に思考・判断する力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力
②未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力
③多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的に、コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者との協力・共同してものごとを進めようとする態度
⑥つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのかかわり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度
⑦責任を重んじる態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

自分とのかかわり

課題を見つけ、追求する中で自分の考えをもつことができる。

社会の一員として自分にできる事を実践したり、学習で培った思いや考えを自分の生活に活かしたりすることができる。



課題解決力	批判的に思考・判断する力
	未来像を予測して計画を立てる力
実践力	つながりを尊重する態度
	責任を重んじる態度

他者とのかかわり

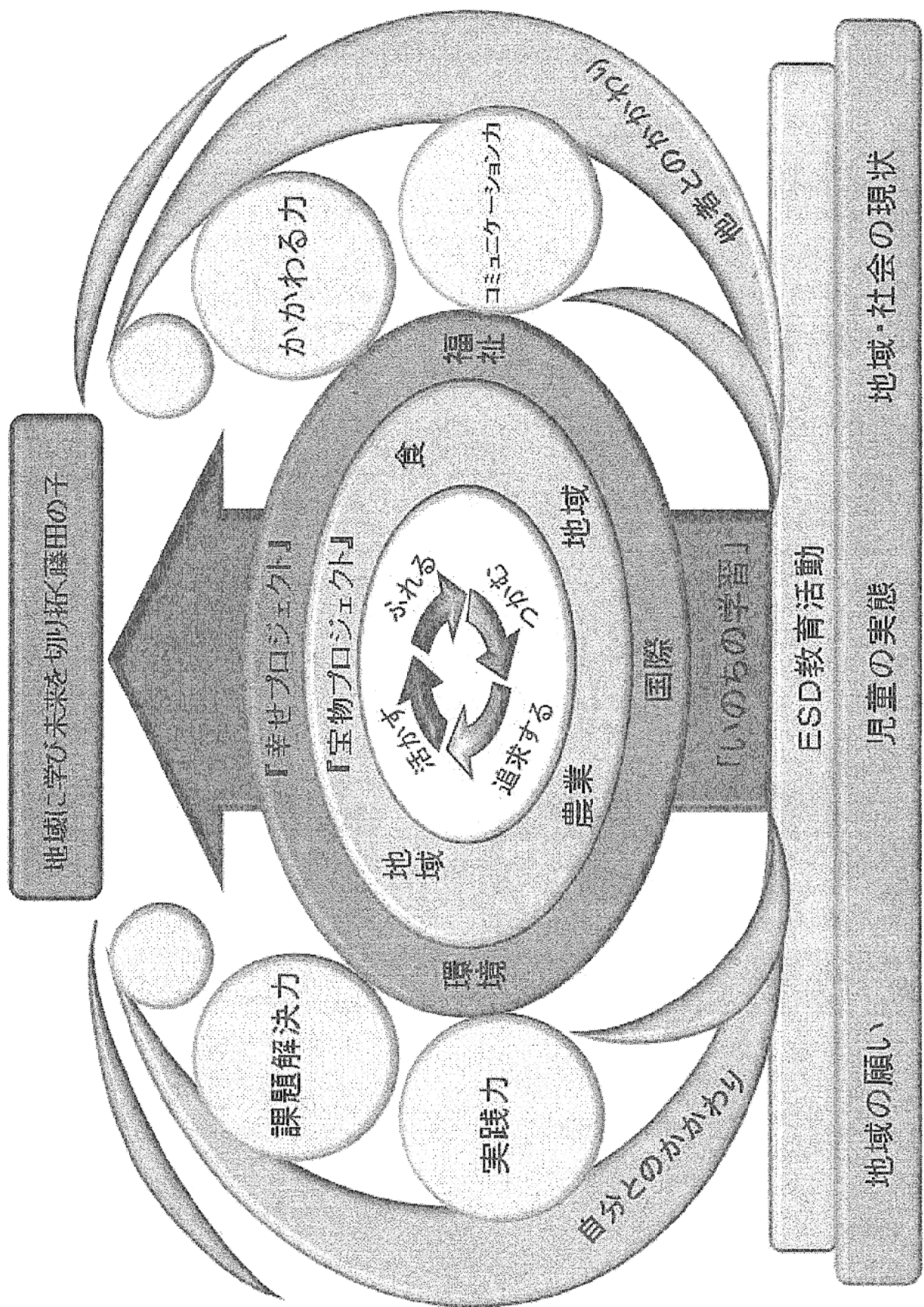
相手の立場や考えを理解しながら、自分の思いや考えを伝えることができる。

人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げようとするすることができる。



かかわる力	多面的・総合的に考える力
	他者と協力する態度
コミュニケーション力	コミュニケーションを行う力

3 研究構想図

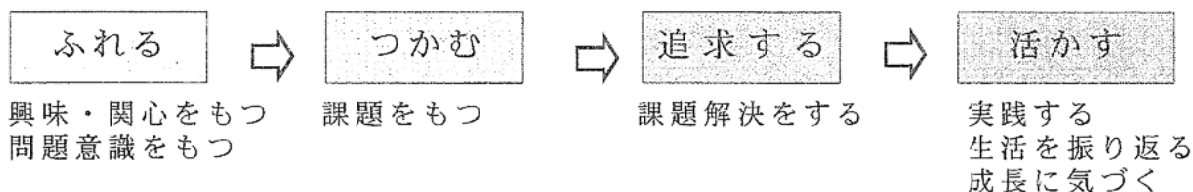


4 手だての詳細

(1) 単元構想の見直し

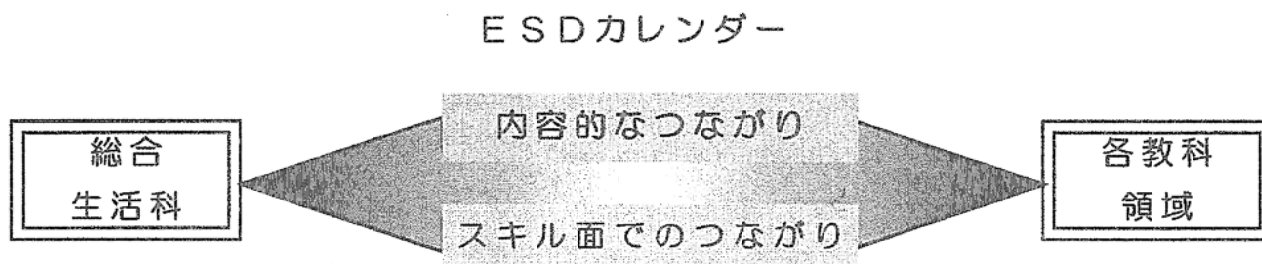
既存の総合的な学習の時間の単元を、ESDの視点に立って見直しを行った。「単なる体験活動に終わらず、探求的な学習になること」「自分の成長に気づいたり、自分の生活を振り返ったりできること」を意識して、新たに単元構想図を作成した。

また、児童が課題意識をもち、必然性をもって継続的・発展的に学習に取り組むことができるよう、「ふれる」「つかむ」「追求する」「活かす」の4つの段階を設けて単元を構成した。



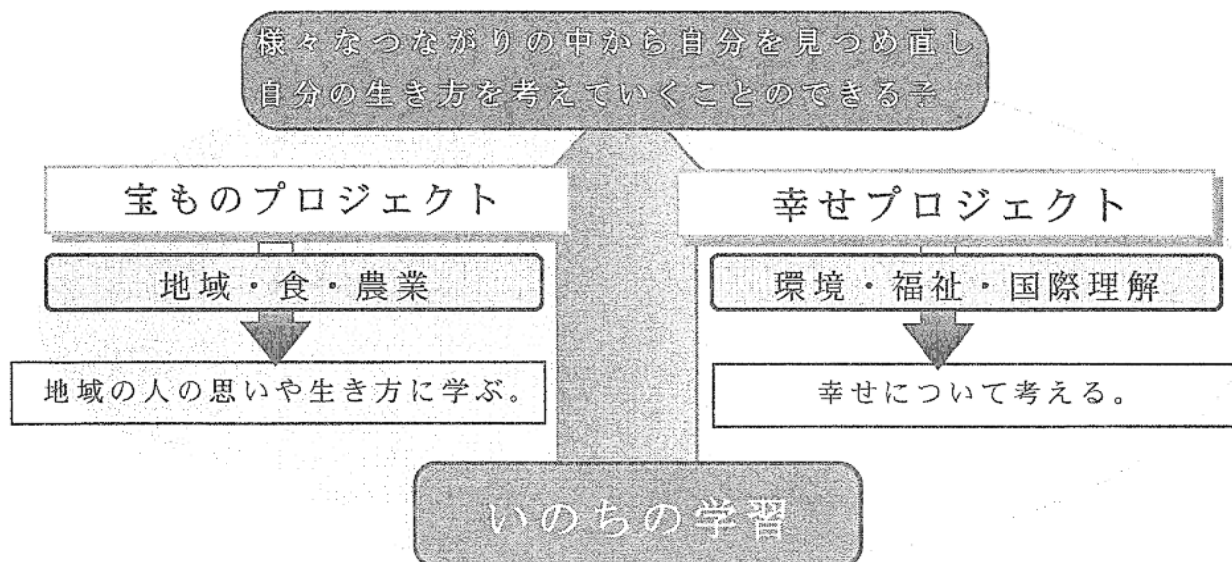
(2) ESDカレンダーの作成

横断的・統合的な指導を行うためにESDカレンダーを作成した。ESDカレンダーは、「内容的なつながり」と「スキル面でのつながり」に分け、その根拠を明らかにすることで、見通しをもち、学習内容のつながりを考えながら授業を進めたり、培いたい力を意識して指導したりできるようにした。



(3) 6年間を見通したプロジェクトデザインの作成

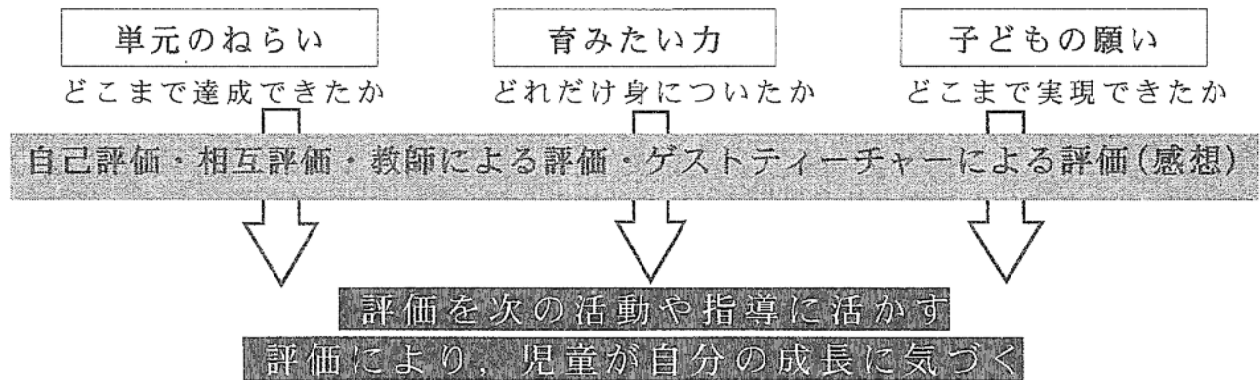
研究を進める中で、生活科・総合的な学習の時間の単元の中に、子どもたちに育みたい思いやもたせたい価値観のつながりがあることに気づいた。そこで各学年の単元を、大きく2つのプロジェクトと捉え、縦の系統を考えて6年間のプロジェクトをデザインした。それら2つのプロジェクトを通して、様々なつながりの中から自分を見つめ直し自分の生き方を考えていく「いのちの学習」を構築する。



(4) 育みたい力の具現化と評価

めざす子ども像に近づくために育みたい力を見直し、低・中・高学年で系統性を考えて整理し、具現化した。

ねらいに迫る価値ある活動にするために、その単元でどの力を育みたいのかを明確にし、児童の具体的な姿を想定して授業を行う。また、課題づくりに十分時間を費やし、子どもの願いを大切にしながら学習を進めていく。それらを実践することで、児童が自分の成長に気づくことができたり、評価を次の活動や指導に活かすことができるよう、研究を進めている。



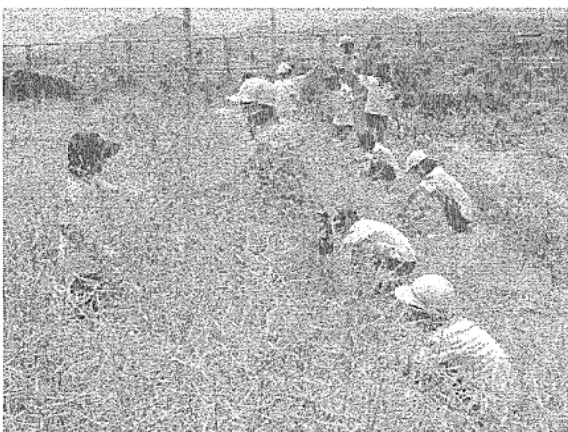
(5) 体験・交流活動の充実



お世話になった地域の方や保育園児を招待してのおまつり



地域の農家へ見学&インタビュー



興陽高校の菜の花プロジェクトへの参加

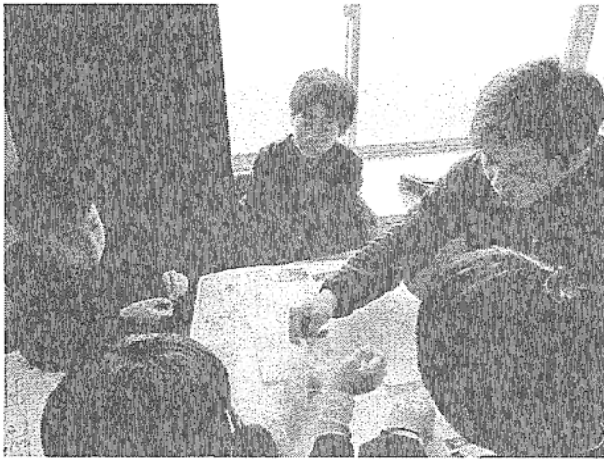


各種体験プログラムへの参加



フィールドワークによる地域の方へのインタビュー

バケツ稲栽培による品種別比較実験

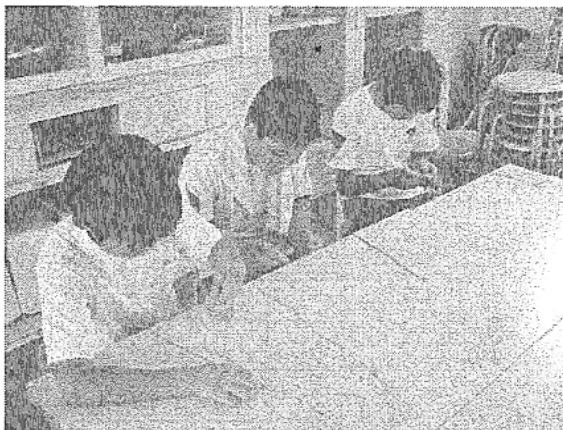


「20年後の藤田の農業について」
農業後継者との意見交換会

ハートオブゴールドと協働で行う
国際貢献活動



スカイプによるカンボジア教育省の方への質問



手作りのミサンガをプレゼント



ミサンガを受け取るカンボジアの子どもたち

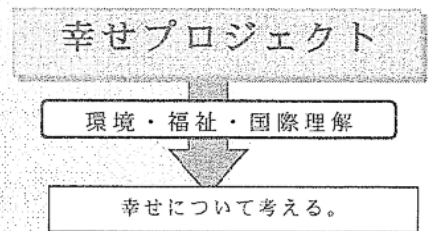
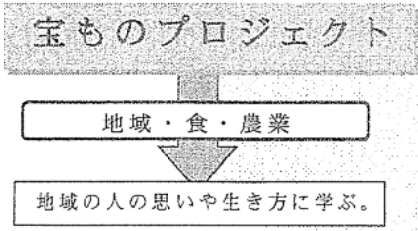
第三藤田小学校 生活科・総合的な学習で育みたい力 H2.5

	子ども姿	育みたい力	低学年	中学年	高学年
自分のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見つめる 情報を集める まとめる 考えをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ② 課題を見つけて、追求する力 ① 調べた事実を整理して自分の考えをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや工夫を表現するために工夫して活動することができる。 ○活動をして、気づいたり、感想をもつたりすることができる。 ○地域の活動に自分から参加しようとする。 ○気づいたことを生活に活かしていき 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題をもつていて、大まかな見通しをもつことができる。 ○調べたことを整理して自分の考えをもつことができる。 ○地域へ目を向けて自分のできることを行動しよ ○学習を通して培った自分の生活や重ねて考え、自分の生活に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や学年全体の問題について見通しをもつて追求することができ ○調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。 ○社会の一員としてまわりなりに働きかけながら自分のできる活動をしよ ○学習を通して培った考えや思いを自分や周りの生活と重ねてい ○この自分の関わり方を考えたりして生活に活かすことができる。
他者のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> かかわる 協力する 気づく 受け入れられる 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 相手のことを考えてかかわる力 ③ 人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げようとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のまわりの人に進んでかかわることができる。 ○自分の言葉で表現し、伝えることができる。 ○お互いに話し合ったり、話しかけたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の立場や気持ちを理解し、かかわることができる。 ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げることができる。 ○目的や意図に応じ、資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる。 ○互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。 	

【資料】E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

①批判的に思考・判断する力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力
②未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力
③多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的に、コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・共同してものごとを進めようとする態度
⑥つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然など自分とのつながり・かわり・関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度
⑦責任を重んじる態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに参加しよとするとする態度

第三 藤田小学校 6年間のプロジェクトデザイン



いのちの学習

1年生
単元名「ふゆを楽しもう」

2年生
単元名
「おいしくそだてわたしの野菜い」
「うごくうごくわたしのおもちや」

☆自分たちが支えられていることに気づく

- ◇老人会の方に昔遊びを教えてください。
- ◇玉ねぎの苗植え、収穫をさせてもらう。
- ◇野菜の育て方について地域の農家の方に教えてください。
- ◇地域の方におもち作りを教わったり、一緒に遊んだりする。

おじいちゃん
おばあちゃんは
すごいな。

4年生
単元名「やさしいまちづくり」

☆藤田の自然や人を大切にする思いをもつ

- ◇「自然や人にやさしいまち」とはどんなまちかを話し合う。
- ◇藤田について調べる。
 - ・いいところもあるけど、よくないところもあるよ。
- ◇各種教室に参加する。
 - ・こんな活動をしている人もいるんだ。こんな方法もあるんだ。
- ◇お年寄りや視覚障害者と交流する。
 - ・ぼくたちと同じだね。ただちょっと不便なだけなんだね。
- ◇自分たちにできることを考えて実践する。

自分たちの住む
藤田は、やさしい
まちになってるかな？

人や自然を気遣う
気持ちが大切なんだな。
ぼくたちにもできる
ことを身近なことから
考えよう。

藤田の宝物って
何だろう？

3年生
単元名「三藤のお宝をさがそう」

☆地域に愛着をもつ

- ◇藤田の宝物について話し合う。
- ◇藤田の農作物や名人について調べる。
 - ・おいしい野菜をつくるために努力や工夫をしているすごいな。
 - ・藤田の野菜がおいしい理由。
- ◇JA女性部の活動の意味を考える。
 - ・いい物を作ったり誰かに喜んでもらうために努力をしている人たちがいる。それって名人さんも同じだね。

藤田で作られている
たくさんの農作物
や、努力を続けている
人が宝物なんだね。

20年後の
藤田の米作りが
もっとよくなる
ためにはどうす
ればいんだ
ろう？

5年生
単元名「プロジェクト八十八」

☆地域に誇りをもつ

- ◇藤田に農業は必要か話し合う。
- ◇農業のよい点や問題点から課題をもつ。
 - ・いいところもたくさんあるけど、高齢化や後継者問題などもあるんだ。何とかならないかな？
- ◇20年後の藤田の米作りについて考え、提案書を書く。
- ◇農業後継者と意見交換をする。
 - ・作業が楽になるとかじゃなく、消費者のために安心して安全な米作りをめざしているんだね。
 - ・販売する人、機械を開発する人、私たちに食べる人・・・みんな農業とつながっているんだ。
- ◇自分たちにできることを考えて実践する。

生産者も消費者も幸せ
になれる農業がいいな。
農作物を食べて生活
している私たちも農業
とつながっているんだ
ね。

途上国の子ども
たちは不幸だと思っ
ていたけど、なぜ笑顔
なんだろう？

6年生
単元名「幸せって何？」

☆多様な価値観を知る

- ◇「幸せ」について話し合う。
 - ・幸せと思うことは他の国の人も同じなのかな？
- ◇世界の諸問題について調べる。
 - ◇ハートオブゴールドの方からカンボジアの現状について話を聞く。
 - ・カンボジアの人たちのために何かしたいな。
 - ◇1回目の物資支援活動をする。
 - ・生活に必要なものや足りないものを送ろう。
 - ◇自分たちで考えて2回目の物資支援活動をする。
 - ・もっと喜んでもらえるものはないのかな？ぼくたちなら何がうれしいかな？
 - ・喜んでもらえてうれしいな。やってよかったな。
- ◇「幸せ」について考える。
 - ・人によって「幸せ」と思うことは違うんだな。
- ◇自分の生活を振り返る。

私たちの生活も、世界
の国々の人たちと、つ
ながっているんだ。
誰かの役に立つこと
で、自分も幸せになれる
んだね。

☆この単元で育みたい思い
(藤田中学校区共通)
◇児童の活動
・その活動で育みたい思い

様々なつながりの中から自分を見つめ直し
自分の生き方を考えていくことのできる子

1 単元名 あきと ともだち

2 単元目標

- 夏から秋への季節の変化を味わいながら、見つけた木の実や葉っぱを使って遊んだり、校庭や公園、学校の周りで秋を探したりして、自然のよさを自分なりに感じ取ろうとする。
- 友だちと力を合わせて秋のもので遊んだりおもちゃを作ったりしながら、自分たちの生活を楽しくしようとする。
(生活への関心・意欲・態度)

- おもちゃや遊びを楽しくするために材料や遊び方を工夫したり、招待する保育園の人のことを考えて計画を立てたりすることができる。(活動や体験についての思考・表現)

- 秋になると自然の様子が変わることや、自然の中で遊んだり自然物を使っておもちゃを作って遊んだりすることの楽しさに気づくことができる。
- 保育園の人を招待して一緒に遊ぶことで、主体的に人とかかわることの楽しさや相手に応じた適切なかかわり方があることに気づくことができる。(身近な環境や自分についての気づき)

3 単元構想(別紙)

4 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「自分の思いや願いを実現するために工夫して活動することができる」ための工夫

- ・ 身近にある秋の自然を見つけたり、触ったり、遊んだりして、しっかりと楽しむことで、秋の実や葉っぱで遊ぶものを作りたいという思いを明確にもてるようにし、興味をもって自然物を採集したり、意欲的におもちゃ作りに取り組んだりできるようにする。
- ・ 秋の自然物を選ぶゲーム「秋ビンゴ」を通して、楽しく、秋の作物や旬の意味や身近な秋について確認したり新しく知ったりし、興味をもって秋の自然にかかわることができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「自分のまわりの人に進んでかかわることができる」ための工夫

- ・ 秋の実や葉っぱで遊んだことを紹介する活動では、遊びの違う人同士をグループにすることで、遊びを教え合いながら一緒に遊ぶことができるようにする。
- ・ 秋の自然物を利用したおもちゃで、クラスの人と遊び、さらに保育園の人と遊ぶことで、相手に喜んでもらえるように遊びを工夫したり、人と交流することの楽しさを味わうことができるようにする。
- ・ クラス全体や小グループなど活動の内容にあわせた集団の中で、自分の活動や考えを発表しあう機会を効果的に設け、友だちの考えに関心を持ち、お互いの考えを共有できるようにする。

目標	秋ビンゴを通して、秋の自然に関心を深めたり、秋の自然物で遊ぶことに見通しをもったりすることができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 前時までの活動を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○さつまいもを収穫したり、食べたりしたことを想起させ、秋の楽しいイメージを共有することで、秋について親しみをもって活動に入れるようにする。	
あきビンゴをして、あきをもっとしよう。		
2 あきビンゴのルールを知り、秋の自然を思いだしたり推察したりしながら、ビンゴカードに記入する。	○ <u>自然物の写真(絵)を提示し、その中から秋のものと思うものをビンゴのますに記入させることで、楽しく秋の自然を思い出したり推察したりできるようにする。</u> ○提示する自然物は、次の条件で選んでおく。 ①児童の生活経験から容易に推察できるもの ②前時までに校庭で児童が目にしてしているもの ③次時以降に学校の周りや公園で見ついたり採集したりしてほしいもの ④旬の意味が理解できるもの	○前時までの学習や日常生活を振り返りながら、自然物を選んでいる。 (観察・ビンゴカード)
3 あきビンゴで選んだ秋の自然物を発表しながら、ビンゴの答え合わせをする。	○本時の最後まで楽しい気持ちで活動できるように、正解になるもの(秋のもの)以外は提示しない。 ○ <u>ビンゴカードに書いたものと、その理由を、みんなの前で発表させ、発表した児童の生活経験や考えを共有できるようにする。</u> ○児童が発表した理由をもとに、黒板の写真(絵)を、食べられる物と遊べる物とに意図的に分けて並べておき、まとめに生かす。	○自分の考えを理由を添えて伝えることができている。(観察)
4 本時のまとめをする。	○身近なものでも秋を再認識したのがあることを確認し、校庭をもう一度探検したり、学校の周りを探検したりしたいという思いをもたせ、次時につなげる。 ○秋の自然物には、食べられる物だけでなく、遊べる物があることを押さえ、どんぐりなどの自然物を集めて遊びたいという意識が高まるようにする。	

単元構想

	学習過程	学習活動と児童の意識の流れ	全体への支援
ふれる	あきをさがそう。(4)	校庭の秋を探す。 ・アサガオの種がとれたよ。 ・バッタやカマキリが大きくなったよ。 ・サツマイモが大きくなったよ。 ・家でも秋を探してみよう。 さつまいもを収穫して食べる。 ・サツマイモを植えてよかったな。 ・秋っておいしいね。	・夏の様子と比べながら、自然の様子が変わっていることに気づかせる。 ・虫については、前の単元で学習しておき、本単元では、植物に目が向くようにする。 ・育てたサツマイモを収穫して食べる活動を初めのほうに行い、単元の見通しを楽しいものにする。
	あきについてかんがえよう。(1) 本時	秋ビンゴをする。 ・秋はいろんな食べ物や実ができるんだね。 ・秋っておいしいだけじゃなく、楽しそう。 ・秋の物を探したり集めたりしたいな。	・秋のビンゴを通して、秋は実がなるものが多いことに気づき、実に興味をもって学習を進めていけるようにする。 ・秋の自然物で遊べることを知らせ、おもちゃ作りの道筋をつけておく。
つかむ	もっとあきをさがそう(3)	学校の周りの秋を探す。 ・稲にお米ができていますよ。 ・柿の実がなっているよ。 ・草にも実ができていますよ。 ・どんぐりはないのかな。 公園に行って秋を探す。 ・どんぐりがたくさん拾えたよ。 ・きれいな色の葉っぱがあったよ。 ・木の実や葉っぱで遊びたいな。	・身近な自然を秋という観点で見ながら、藤田地区の自然の豊かさに気づくようにする。 ・自然を大切にしながら、自然物で遊ぶ楽しさを体験できるようにする。 ・どんぐりがたくさんなっている場所に連れていき、身近にはなかった自然に気づき、興味をもって観察したり、自然物を集めたりできるようにする。
	あきであそぼう。(3)	木の実や葉っぱで遊ぶ。 ・どんぐりごまが楽しいね。 ・木の実でアクセサリを作ったよ。 ・葉っぱのかんむりができたよ。 ・落ち葉のお風呂が楽しいよ。 ・友だちにも紹介したいな。 木の実や葉っぱで遊んだことを紹介する。 ・自分も作ってみたいな。 ・みんなで一緒に遊んだら、もっと楽しそう。	・集めた自然物で思い思いのものを作ったり、遊んだりして、秋の自然を楽しめるようにする。 ・秋の図鑑や遊び方の本を用意して、いつでも見られるようにしておく。 ・いろいろな秋の実や道具などを用意し、なかよく安全に使えるように指導しておく。 ・遊びの違う人同士をグループにして、グループ内で紹介しあったり教えあって遊んだりして、いろいろな遊びを体験できるようにする。
追求する	あきのおもちゃをつくってみんなであそぼう。(4)	葉っぱや木の実を使って、みんなで遊べるおもちゃを作る。 ・どんぐり迷路を作ろう。 ・一緒につなげて大きくしよう。 ・どんぐりごまの土俵を作ろう。 ・どんぐりでくじが作れるよ。 ・もっと他の人にも見せたいな。 ・保育園の人を招待しよう。	・体験したものの中から選び、みんなで遊べるようなおもちゃの計画を立てるようにする。 ・友だちと一緒に作ってもよいことを確認し、協力しておもちゃ作りができるようにする。 ・計画カードに必要な物や手順を書かせ、制作の見通しを持たせる。
話かす	ほいくえんのひとといっしょにあきのおもちゃであそぼう。(5)	保育園の人を招待する計画を立てる。 ・保育園の人に楽しんでもらいたいな。 ・どうしたら楽しんでもらえるかな。 保育園の人を招待し、一緒に楽しむ。 ・一緒に遊ぶと楽しいな。 ・保育園の人もおもしろそう。 ・工夫したところが喜んでもらえたよ。	・保育園の人を招待して一緒に遊ぶことを確認し、準備について話し合わせ、協力して準備できるようにする。 ・保育園の人に楽しんでもらえるように、ルールや遊び方を工夫できるようにする。 ・保育園の人の役を代わり合って行い、実際の場面を想像させながら、上手なかかわり方を考えられるようにする。 ・生活科カードに、楽しかったことやよかったことを絵や文でかき、単元の振り返りをさせる。 ・クラスで発表し合い、秋の楽しさやお互いの成長をみんなで共有できるようにする。
	まとめをしよう。	秋を探したり秋で遊んだりしたことを振り返り、秋のよさや自分の成長を絵や文で表す。 ・秋の物でいろんなことができて楽しかったね。 ・秋っていいね。 ・保育園の人のお世話が大変だったけど、喜んでもらえてよかったよ。	

平成25年10月9日(水) 5校時

指導者 2年担任 山本龍太郎

1 単元名 うごくうごくわたしのおもちゃ

2 単元目標

- 動くおもちゃを作ったり遊んだりすることを通してそのおもしろさや不思議さに関心をもつことができる。
- 自分で作った動くおもちゃを使って、みんなで遊びを楽しむことができる。
(生活への関心・意欲・態度)
- 動くおもちゃを使って遊びながら、おもちゃの仕組みに興味をもち、工夫しながら作ることができる。
- みんなに楽しんでもらうために遊びのルールを工夫することができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- 身近な材料を使い、工夫しながら、遊ぶものを作ることができることに気づく。
- 動くおもちゃを作ったり、使って遊んだりするなかで、みんなといっしょに遊んだり、作ったりする楽しさやよさに気づくことができる。
(身近な環境や自分についての気づき)

3 単元構想図(別紙)

4 単元について

本単元は、9つの指導内容のうち、主に(6)身近にある物を使った遊び(8)身近な人との交流に関わって構成した単元である。

身近にある物を使って動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫して作ったりすることが主な活動で、その活動をさらに他の人(1年生、保育園児や地域の方々)に広げて、みんなで活動を楽しみつながりをもつ機会とするのが、本単元である。

「ふれる段階」では、まず、動くおもちゃの見本を用意して触って遊ばせることで、子どもたちの興味を引き、「作って、遊びたい」という思いをもてるようにする。そして、自分自身で作って遊ぶ場を設定し、しっかり遊んで楽しませる。その際、おもちゃ作りの先生役として地域の方々に協力していただき、児童一人ひとりが確実におもちゃを作って楽しむことができるようにするとともに、いっしょにおもちゃ作りをすることで交流を図る機会としたい。

「つかむ段階」では、自分たちが作ったおもちゃで友だちと遊んだり競争したりする中で、おもちゃの仕組みに興味をもち、工夫をしたり、遊び方のルールを考えたりさせたい。

「追求する段階」では、動くおもちゃで遊ぶ楽しさを知った子どもたちに、自分たち以外の人といっしょに遊びたい人がいるかたずね、まず1年生といっしょに遊ぶ場を設定する。その活動のなかで、ルールや遊び方の説明をするなどして、いっしょに楽しく遊ぶ経験をさせる。そして、「もっとたくさんの人といっしょに遊びたい」という思いをもたせることで、保育園児や地域の方々へさらに目が向くようにしたい。1年生よりも小さい保育園児や大人

の地域の方という相手意識をしっかりとらせることで、遊びのルールや場の工夫、接し方など、どうすればいっしょに楽しめるかについて、話し合いながら準備を進めていきたい。

「活かす段階」では、保育園児や地域の方々を招待していっしょに動くおもちゃで遊ぶ活動を通して、相手が喜んでくれたり、なかよくなったりという経験を通して、交流することの楽しさを十分に味わわせたい。

5 児童の実態

本学級の児童は、明るく活動的で何事にも興味関心をもって取り組むことができる。特に図画工作や生活科での工作等の制作活動は大好きである。しかし、家では、既製品のおもちゃで遊ぶことが多く、自分たちで遊びを考え出したり、手作りのおもちゃで遊んだりすることは少ないようである。

1学期の図画工作で行った水に浮かべて遊ぶおもちゃづくりでは、夢中になっておもちゃを作り、友だちと楽しく水に浮かべて遊ぶ姿が見られた。しかし、友だち同士で教え合ったり、おもちゃを工夫したり、改造したりする児童は、ほとんどいなかった。

昨年度1年生では、「もうすぐ2年生」の単元で保育園児等と年下の子どもたちといっしょに遊んだり、2年生になって学校探検をしたりと、様々な場面で交流することができ、上級生としてどう接すればよいのかを考えて行動することができるようになってきている。しかし、地域の方々とは、学校行事や生活科で農作物のことを教えていただく等の交流をしているが、地域の方々に対して児童から進んで働きかけるような交流はできていない。

そこで、本単元を通じて、うごくおもちゃを作ったり遊んだりするなかで、いっしょに楽しむための工夫や改造の教え合いを子どもたち同士で行うことができるようにしていきたい。さらに、地域の方々や保育園児と遊びの交流をすることで、主体的に活動できるような場を設定し、交流する楽しさを味わわせたい。

6 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「自分の思いや願いを実現するために、工夫して活動することができる」ための工夫

- ・ 単元の導入で、動くおもちゃの見本を見せて遊ばせることで、動くおもちゃを作って遊びたいという意欲を喚起する。
- ・ 「つかむ」段階では、おもちゃの仕組みや遊び方の工夫をしたいという思いをもてるように、遊ぶ場をおもちゃごとに設定し、競い合ったり、教え合ったりすることができるようにする。
- ・ 「追求する」段階では、「楽しいお店とはどんなお店か」について考える場を設定し、みんなで話し合った楽しいお店の条件を掲示し振り返らせることで、いつでもそれを意識しながらお店の準備をすることができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「自分のまわりの人にすすんでかかわることができる」ための工夫

- ・ 遊びに誰を招待するかを話し合わせることで、自分のまわりの人々(1年生、保育園児や地域の方々)に対して、いっしょに楽しく遊びたいという思いをもてるようにする。
- ・ いっしょに遊ぶ相手として、まず身近な1年生を招待し、さらに保育園児や地域の方々へと段階を追って広げていくことで、より相手意識をもって活動できるようにする。
- ・ 「追求する」段階のお店の練習で、お店の人の役とお客さんの役を交代して行うことを通して、双方の立場から、楽しいお店にするための工夫について教え合うことができるようにする。

目標	お店の人の役とお客さんの役になって、教え合うことで、楽しいお店になるように工夫することができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 本時のめあてをつかむ。	○1年生とおもちゃで遊んだ時のことを振り返り、もっと楽しいお店にしようという思いをもつことができるようにする。	
教え合って、もっとたのしいお店にしよう。		
2 学習の見通しをもつ。 3 楽しいお店になるように、自分のお店の工夫を考える。 ①さくせんタイム（2分） 前半（A店B客） ②練習タイム（6分） ③教え合いタイム（6分） 後半（A客B店） ④練習タイム（6分） ⑤教え合いタイム（6分）	○活動の流れを掲示することで、活動の見通しをもたせる。 ○教え合う視点を明確にするために、再度楽しいお店の条件を確認する。 ○さくせんタイムで、同じ店の人同士で工夫について確認する時間を持ち、練習タイムで活かせるようにする。 ○2つのグループ（A・B）が組になり、互いにお店役とお客になることで教えやすくする。 ○保育園児役は白帽子をかぶり、大人の役は赤帽子をかぶるようにして、相手を意識して接することができるようにする。 ○話し合いがうまくいかないグループには、よかったことや困ったことを相手に伝えるように助言する。 ○教えてもらったことをすぐに取り入れることで教えた側にも教えられた側にも充実感が味わえるようにする。 ○けがをしたり、おもちゃがこわれたり、物が散らかったりしないように約束を確認する。	○楽しいお店になるために教え合うことができた。 （観察、ワークシート）
4 本時の活動を振り返る。	○お店ごとに、どんな意見を取り入れ、どんな点がよくなったかを発表する場をもつことで、使える考えを共有したり、楽しい店になったことを実感したりできるようにする。 ○児童が教え合ったことを楽しいお店の条件に照らし合わせることで、自分たちの思いにそったお店になったことを確認し、次の活動への意欲につなげる。 ○本時をワークシートで振り返る。	

3. 単五構想(全1.7時間) 練習過程

	学習活動と児童の意識の流れ	全体への支援
ふれる	<p>うごきおもちやをつくらう。(2)</p> <p>うごきおもちやをつくらう。(2)</p> <p>うごきおもちやをつくらう。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に動くおもちやの見本を1つずつ見せ、作って遊ぶ場をもち、自分で動くおもちやを作る経験させ、他の物も作って遊ぶ。 ・材料の用意についても、学年便りで知らせしておき、なるべく準備がそろおうようにしておく。 ・おもちやを作るときは、みんなで作るように遊ぶように誘導し、競争できるような場を想定する。 ・第3・4手では、地域の人がおもちやの作りかたを教える場を想定し、地域の方と交流できるようにする。 ・上級生が下級生に教える場を想定し、次回はもっとうまくできるよと工夫することを、意欲的に取り組めるようにする。 ・おもちやがうまくできたら、「いっしょにやりたい人や教えてあげたい人がいるか」とたずね、活動を広げる話し合いをもてるようにする。 ・安全に遊べる場所を決めておくことで、その場所を使ってスムーズに活動できるようにする。
つかわ	<p>もつとくうふしよう(2)</p> <p>1年生とくうふしよう(2)</p> <p>1年生とくうふしよう(1)</p> <p>1年生とくうふしよう(1)</p> <p>お店の計かぐをたてよう(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちやがうまくできたら、「いっしょに遊みたい人がいるか。」と投げかけ、活動がひろがるように誘導する。 ・保護者の方や地域の人がおもちやの作りかたを教える場を想定し、地域の方と交流できるようにする。 ・おもちやの作りかたを教える場を想定し、次回はもっとうまくできるよと工夫できるようにする。 ・安全に遊べる場所を決めておくことで、その場所を使ってスムーズに活動できるようにする。 ・おもちやがうまくできたら、「いっしょに遊みたい人がいるか。」と投げかけ、活動がひろがるように誘導する。 ・保護者の方や地域の人がおもちやの作りかたを教える場を想定し、地域の方と交流できるようにする。 ・おもちやの作りかたを教える場を想定し、次回はもっとうまくできるよと工夫できるようにする。 ・安全に遊べる場所を決めておくことで、その場所を使ってスムーズに活動できるようにする。 ・おもちやがうまくできたら、「いっしょに遊みたい人がいるか。」と投げかけ、活動がひろがるように誘導する。 ・保護者の方や地域の人がおもちやの作りかたを教える場を想定し、地域の方と交流できるようにする。 ・おもちやの作りかたを教える場を想定し、次回はもっとうまくできるよと工夫できるようにする。 ・安全に遊べる場所を決めておくことで、その場所を使ってスムーズに活動できるようにする。
追求める	<p>お店のじゆんびを(1)</p> <p>お店のじゆんびを(2)</p> <p>お店のじゆんびを(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちやの作りかたを教える場を想定し、次回はもっとうまくできるよと工夫できるようにする。 ・安全に遊べる場所を決めておくことで、その場所を使ってスムーズに活動できるようにする。 ・おもちやがうまくできたら、「いっしょに遊みたい人がいるか。」と投げかけ、活動がひろがるように誘導する。 ・保護者の方や地域の人がおもちやの作りかたを教える場を想定し、地域の方と交流できるようにする。 ・おもちやの作りかたを教える場を想定し、次回はもっとうまくできるよと工夫できるようにする。 ・安全に遊べる場所を決めておくことで、その場所を使ってスムーズに活動できるようにする。 ・おもちやがうまくできたら、「いっしょに遊みたい人がいるか。」と投げかけ、活動がひろがるように誘導する。 ・保護者の方や地域の人がおもちやの作りかたを教える場を想定し、地域の方と交流できるようにする。 ・おもちやの作りかたを教える場を想定し、次回はもっとうまくできるよと工夫できるようにする。 ・安全に遊べる場所を決めておくことで、その場所を使ってスムーズに活動できるようにする。
話かす	<p>お話をしよう。(2)</p> <p>お話をふりかえよう。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習で反查したことについて確認をすることで、本番のお店で気をつけてできるようにする。 ・振り返りシートを用意し、がんばったことや楽しめたことなどを振り返らせることで、百分の成長に気づけるようにする。

平成25年10月9日(水) 4校時 指導者 3年担任 河本 浩行

1 単元名 三藤のお宝をさがそう～レンコンのひみつをさがろう～

2 単元目標

- 藤田学区の野菜作りやその農家について調べたり、それらを実際に食べてみたりすることを通して、地域への愛着をもつことができる。(かかわる力)
- 藤田の野菜や農家について調べる上で自分なりの課題をもち、農家の見学やインタビューを通してその解決をはかっていくことができる。(課題解決力)
- 調べたことを整理して新聞にまとめ、わかりやすく工夫して発表したり、友だちの発表について感想を返したりすることができる。(コミュニケーション力)

3 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「自分の課題について、大まかな見通しをもって追求することができる」ための工夫

- ・ はじめに「三藤の宝ものは何か」について話し合うことで、三藤のさまざまなものに目を向け、興味をもって宝ものを探す活動に入れるようにする。
- ・ 藤田のレンコンを実際に食べることでそのおいしさを知り「どのようにして作っているのだろう」「どうやったらおいしくなるのだろう」と興味をもって学習に入れるようにする。
- ・ 実際に畑に足を運び、目で見たり体験したり話を聞いたりすることで興味をもって調べたり、農家の苦労や工夫に気づいたりできるようにする。
- ・ 互いの調べたことを仲間分けし、農家に着目した児童を賞揚することで、農家の方が今までされてきた苦労や工夫などにも目が向くようにする。
- ・ もっと調べたいという児童の意欲が継続するように、農家の方に取材する機会を2回設定する。

(2) 他者とのかかわり

「相手にわかりやすく整理して表現し、調べたことを報告したりそれらを聞いて意見や感想を言ったりすることができる」ための工夫

- ・ 発表の際には絵や写真を使うことで、視覚的にわかりやすい発表となるようにする。
- ・ 意見の交流の際には付箋を使用することで、意見の分類などがスムーズに行えるようにする。
- ・ 友だちと発表を聞きあう場を設定し、アドバイスしあうことで、よいところは取り入れられるようにする。
- ・ 学習発表会で発表する場を設定することで、相手意識をもってわかりやすい発表の仕方を工夫できるようにする。

目標	自分や友だちの調べたことを仲間分けし、比べることができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 本時のめあてをつかむ。	<p>○レンコン新聞にどんなことを書いたのかを発表させ、友だちの調べたことに興味をもたせることで、本時の活動への意欲をもたせる。</p> <p>○本時は、前時までに書いたレンコン新聞の記事を班ごとに仲間分けすることを知らせる。</p>	
レンコン新聞でみんなが調べたことをなかまわけしよう。		
2 話し合いの仕方を知る。	<p>※仲間分けの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物について ・機械について ・苦労や工夫 ・育て方 <p>などが予想される。</p> <p>○教師の用意した大きな付箋をもとに、全員で仲間分けをやることで、話し合いの見通しをもつことができるようにする。</p>	○自分や班の友だちの記事を仲間分けすることができる。 (観察)
3 話し合いをする。	<p>○机間指導を行い、積極的に意見を言っている児童を賞揚することで、活動に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>○付箋を使用し操作することで仲間分けの作業をしやすくしたり、全員が意見を言ったりできるようにする。</p> <p>○分け方を迷っている班については、似ている言葉に注目して分類するなどのアドバイスをすることで分類を進めやすくする。</p>	
4 班の意見を発表する。	○班ごとに仲間分けの結果を発表することで、友だちがいろいろな視点で調べていることに気づくことができるようにする。	
3 本時の振り返りをする。	<p>○次の時間は今日出た班の意見をクラス全体で仲間分けすることで、もっとみんなで調べたり聞いたりしてみたいことをまとめることを伝える。</p> <p>○ワークシートに活動の振り返りを書かせ、本時のまとめをする。</p>	○自分と友だちの調べたことを比べることができる。 (ワークシート)

平成25年10月9日(木) 3校時 指導者 4年担任 藤澤正宏

1 単元名 やさしいまちづくり～人にやさしいまちづくり大作戦(福祉)～

2 単元目標

- やさしいまちづくりのためにどんな工夫や配慮があるのかを自分で調べたり、体験したりすることを通して、自分の考えをもつことができる。
(課題解決力)
- 様々な立場の人々の考え方や感じ方や思いを知ること、自分にできそうなことを考え行動することができる。
(実践力)
- 体験や交流の中で、相手の気持ちを考えながらかかわることができる。
(かかわる力)
- 自分の考えと友だちの考えの共通点や相違点を考えながら話し合いをすることができる。
(コミュニケーション力)

3 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「調べたことを整理して自分の考えをもつことができる」ための工夫

- ・ 「人にやさしいまち」について常に振り返ることで、「こんなまちがいい」「こんなまちになってほしい」という考えを確認させ、「何のために調べたのか」「何のために話し合っていくのか」「今の活動や学習がどうつながっているのか」「これから何をしていけばいいのか」を明確にさせる。
- ・ 福祉体験などの体験活動を通してもった考えや思いを、自分の身近な問題として捉え、より具体的な課題がもてるように、実際に学区と岡山中心部を自分の目で見て、どのような工夫や配慮がなされているかなどを調べ、問題点を話し合うようにさせる。
- ・ 「お年寄り」「子ども」「障がい者」「それ以外の人」という4つの立場で整理することで、みんなの願いはよく似ていることもあるし、その立場特有の願いもあることに気づかせ、やさしいまちづくりのために深く考えることができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「互いの考えの共通点や相違点を考えながら、話し合うことができる」ための工夫

- ・ 福祉体験や課題解決の場を通して、様々な年齢や立場の人の考え方や感じ方に触れることによって、お互いに思いやったり協力したりすることの大切さに気づくことができるようにする。
- ・ 施設・設備の面だけでなく、人と人とのつながり(心のバリアフリー)の面からも、課題追求できるようにする。
- ・ 取材したり体験したりしたことを具体的に話しながら自分の考えを発表させたり、付箋を用いて自分の考えを発表したりすることで、わかりやすく伝えると同時に友だちの考えと比べながら話し合いができるようにする。

目 標	取材をもとに、誰にとってという立場ごとにグループ分けをすることにより、「誰にとってもやさしいまち」とはどんなまちなのかを考えることができる。	
学習活動	教 師 の 支 援	評 価
1 本時のめあてをつかむ。	○前時までを振り返り、本時は、事前に調べてきたことについて、グループで整理し、「やさしいまち」について考えていくことを知らせる。	
誰にとってもやさしいまちとはどんなまちなのだろう？		
2 話し合いの仕方を確認する。	○自分の考えをグループで発表しやすくし、話し合いをスムーズに進めるために、調べてきたことを、事前に付箋に書かせておく。 ○見通しをもって活動させるために、話し合いの仕方を確認する。 ①1人ずつ発表する。 ②誰にとってという立場を書いた画用紙に付箋を貼る。（障がい者・お年寄り・子ども・その他） ③グループで話し合う。 ④話し合ったことを発表する。	
3 グループで話し合う。	○調べてきたことがわかりやすく伝えられるように、 <u>調べたことを書いた付箋を、「どの立場」「どんな場所や場面で」を言いながら画用紙に貼らせるようにする。</u> ○ <u>どの立場にも共通のものがあったり、その立場固有のものがあったりすること</u> に気づくことができるようにするために、 <u>どの立場のことなのか、よく似た意見などは近い場所に集めたり、両方に関係ありそうなことは真ん中に貼ったりするなど付箋を貼る場所の工夫をする。</u>	
4 話し合ったことを発表する。	○「誰にとってもやさしいまち」をクラスみんなで共有できるようにするために、各グループで話し合ったことを発表させる。	
5 本時のまとめをする。	○本時の振り返りを書かせ、次時では、自分たちが始めに考えた「誰にとってもやさしいまち」と比べ、新しくなった「やさしいまち」について考えていくことを確認する。	
		○取材して調べてきたことをわかりやすく伝えることができた。（観察） ○やさしいまちとは、「誰にとっても」という視点に気づくことができた。（ワークシート・観察）

平成25年10月9日(水) 4校時

指導者 5年担任 板倉 真由美

1 単元名 プロジェクト八十八 ～20年後の藤田の米作りについて考えよう～

2 単元目標

- 藤田の米作りのいいところや問題点から自分なりの課題をもち、提案書を作成することを通して20年後の藤田の米作りについて考えることができる。(課題解決力)
- 米作りに携わっている人たちへの取材や交流を通して、米作りのための工夫や努力に気づき、地域に愛着をもつことができる。(かかわる力)
- 作成した提案書をもとに説明や提案をしたり、友だちの考えを聞いて質問や助言をしたりすることができる。(コミュニケーション力)

3 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

..(1) 自分とのかかわり

「調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる」ための工夫

- ・ 農家の方から、農業のよいところと問題点の両面から話を聞くことで、課題意識をもって学習に取り組めるようにする。
- ・ 「20年後の米作りはどうなっているとよいか」について話し合い、「こうなって欲しい」という自分なりの考えを初めにしっかりともち、何について調べればよいか見通しをもち、調べ学習に入れるようにする。
- ・ 学校田やバケツ稲での米作りの実践を調べ学習と平行して行い、調べたことをその実践に取り入れていくことで、そのよいところと問題点を実感できるようにする。
- ・ バケツで違う品種の稲を育て、実際に観察や実験をすることで、考えの根拠となるようにする。
- ・ 地域にフィールドワークに出かけ、米作りに携わっている方たちに直接質問する機会をもたせることで、地域の方の思いや願いにもふれることができるようにする。
- ・ 違う考えをもった友だちや農業後継者クラブの方と考えを交流する機会をもち、「よりよい米作り」には様々な考えや見方があることに気づくことで、更に自分の考えを見直し、米作りについて深く考えることができるようにする。
- ・ 提案書を作成する過程で、友だちどうしで情報交換したり、経験者の6年生にアドバイスしてもらったりする場を設定することで、互いの考えを交流したり、提案書の見直しをしたりできるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「目的や意図に応じ、資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる」ための工夫

- ・ 国語「わたしたちの図書館改造提案」や「天気を予想する」で学習したことを活用し、提案書の構成を考え、表やグラフ、写真などを使ったわかりやすい提案書を作成することができるようにする。
- ・ 聞き手にわかりやすい提案書にする必要感をもたせるために、違う考えをもった友だちや農業後継者、保護者、地域の方など、様々な立場の人に提案を説明する機会を設ける。
- ・ ふだん発言しにくい児童が考えを書いて発表しやすいように、また、考えを共有したり、整理したりしやすいように、付箋を利用する。

目標	フィールドワークで調べたことを情報交換しあうことで、提案書の資料の見直しをしたり、友だちと考えを交流したりすることができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 本時のめあてをつかむ。	○本時はグループでフィールドワークで調べたことを情報交換し、提案書に載せる資料の見直しをすることを知らせる。	
互いに調べたことを情報交換して、提案書の資料の見直しをしよう。		
2 話し合いの仕方について確認する。	○教師が話し合いのモデルを示すことで、話し合いの進め方や、何について話し合うのかの見通しがもてるようにする。	
3 グループで話し合いをする。	○ <u>グループは、調べた情報が共有しやすいように、似た提案をする児童で構成し、意図的に違う場所へ取材に行った児童を組み合わせることで、多くの情報が得られるようにする。</u> ○あらかじめ、提案書のレイアウトを書いたワークシートを準備させておき、どんな資料を使おうとしているかが視覚的にわかるようにしておく。 ○始めに、提案書の構成と何の資料を使おうとしているかを説明させることで、足りない情報や新しい情報を交換しやすくする。 ○付箋を用意し、貼りながら情報交換することで、グループ全員が意見を言ったり、話し合いやすしたりする。	○友だちと互いに調べてきたことについて情報交換することができた。 (観察・付箋)
4 情報交換をもとに、提案書に載せる資料と表現の仕方を見直す。	○「わかりやすい資料」とはどんな資料なのかを確認し、次の2つの観点から資料の見直しができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">①伝えたいことに合った資料になっているか。 ②わかりやすい表現の仕方になっているか。 例 表, グラフ, 写真, ランキング 等</div> ○黒板に掲示することで、常に意識できるようにする。 ○ワークシート上で、付箋を操作し整理することで、 <u>自分の提案書を見直しやすくする。</u> ○友だちからの情報を参考に、資料をとりかえたり付け足したりしてもよいことを助言する。	○友だちとの情報交換をもとに、2つの観点を沿って提案書の見直しができた。 (ワークシート・観察)
5 本時のまとめをする。	○ワークシートに活動の振り返りを書かせ、本時のまとめをする。	

学習過程	藤田の農業について話そう。	児童の学習活動と意識の流れ	他教科との関連	その他
<p>ふれる (㊸)</p>	<p>必要! おじいちゃんやおばあちゃんが田んぼを守ってきたから、そのために平拓した土地だから、田んぼよりお店が欲しい、他から買えばいい。</p>	<p>この土は特別なのか? 昔の人は大変だったんだ。食べるお米もみは違おう?</p>	<p>社会 「米作りのさかんな地域」 「さまざまな土地のくらし」</p>	<p>協力依頼 地域の方</p>
<p>つかむ (㊹)</p>	<p>農業のよい点や問題点について話を聞こう。</p> <p>たくさん収穫できるといいし、達成感がある。米作りにはお金がかかる。高価で買えない。</p> <p>おいしいお米ができるといい。作業が楽になるといい。安全なお米ができるといい。もったいなく、お米を捨てる人が増えるといい。</p> <p>アヒル農法の見学 (興陽高校)</p> <p>アヒルをつかって安全な米作りができるんだね。お米は高い値段で売れるんだって。でも手間がかかって大変みたいだよ。</p> <p>アヒル農法の見学 (興陽高校)</p> <p>アヒルをつかって安全な米作りができるんだね。お米は高い値段で売れるんだって。でも手間がかかって大変みたいだよ。</p>	<p>お米の種類によって、大きさが形が違ふ。色もちがうよ。種類によって、首の方や採れる根も違うのかな? 調べてみたいな。</p> <p>手作業で植えるのと大変だね。2, 3本の苗に、本当に植えるのかな? この後どんな世話をするのかな?</p> <p>アヒルをつかって安全な米作りができるんだね。お米は高い値段で売れるんだって。でも手間がかかって大変みたいだよ。</p> <p>アヒル農法の見学 (興陽高校)</p> <p>アヒルをつかって安全な米作りができるんだね。お米は高い値段で売れるんだって。でも手間がかかって大変みたいだよ。</p>	<p>言語 「次への一歩活動報告書」</p>	<p>岡山大学 農業 後継者 興陽高校</p>
<p>追求する (㊺)</p>	<p>個人でテーマを決めて調べ、提案書を作ろう。</p> <p>バケツ稲で実験</p> <ul style="list-style-type: none"> 1本の苗からとれる量。 品種によってどんな違いがあるか。 どんな病気になるか。 どんな虫がくるか。 	<p>「藤田に米作りは必要か?」について話し合う。</p> <p>＜三藤田での米作り＞ (含 学校行事) (㊻)</p> <ul style="list-style-type: none"> もみまきをやる。 もみまきの仕方について地域の方に教わる。 手作業でもみをまく。 たねもみの観察をする。 違う種類のたねもみを観察する。 苗を育てる。 田植えをする。(全校行事) 全校に植え方を説明する。 	<p>言語 「わたしたちの『図書館改造』提案」</p> <p>インターネットを使って調べよう。</p> <p>社会 「わたしたちの『図書館改造』提案」</p> <p>インターネットを使って調べよう。</p> <p>社会 「これからの食料生産」</p>	<p>岡山大学 興陽高校 地域の方</p>
<p>活かす (㊻)</p>	<p>意見を交流し自分たちで考えよう。</p> <p>友だちと考えを交流する。</p> <p>提案書の意見交換会をする。</p> <p>提案書を発表する。</p> <p>自分たちのできる事を計画し、実践する。</p>	<p>「自分の考えをまとめ、提案書をつくる。」</p> <p>機械を使うと作業が楽になるんだよ。でも、お金がかかるよ。どうするの?</p> <p>農田では、いいお米を作ったり売ったりするために、いろいろの努力をしているんだね。こんな風に頑張って米作りをしている藤田は素晴らしい。やはり、米作りは必要だね。生産者も消費者も両方が幸せになれる米作りがいいな。小学生の自分たちにも何かできることはないかな?</p>	<p>社会 「水産業のさかんな地域」</p> <p>家庭科 「お米のよさを知ろう」 「五大栄養素のはたらき」</p> <p>言語 「わたしたちの『図書館改造』提案」</p> <p>インターネットを使って調べよう。</p> <p>社会 「これからの食料生産」</p>	<p>岡山大学 興陽高校 地域の方</p>

平成25年10月9日(水) 2校時

指導者 6年担任 菅井 憲人

1 単元名 「幸せって何？」(国際理解)

2 単元目標

- 世界の国々の現状や諸問題を学習することにより、自分のことや自分の生活のことに気づき、その気づきを自分の生活に活かそうとすることができる。(実践力)
- 世界中の人々とのつながりを意識しながら、友だちや家族、地域といった自分に身近なところに働きかけ、自分ができる活動をすることで、世界への関心を広げることができる。
(かかわる力)
- つねに自分の考えや思いをもち、互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。
(コミュニケーション力)

3 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり、『これからどうあればよいか』など、自分のかかわり方を考えたりして生活に活かすことができる。」ための工夫

- ・ 自分と同じ世代のカンボジアの子どもたち(ニューチャイルドケアセンター)と1年間続けて交流をすることで、より相手を身近に感じ、進んでかかわりたいという気持ちをもてるようにする。
- ・ アンコールワット国際ハーフマラソン出場選手やカンボジア留学生の人たちから、カンボジアの生活の様子や学校の施設等についての話をしていただく機会を設けることで、日本との違いに気づき、今の自分の生活と重ねて考えることができるようにする。
- ・ 支援活動を行った後、アフリカ(ユニクロ支援事業)やカンボジア(ハートオブゴールド支援事業)での様子を聞き、相手とつながる喜びを実感することで、今後も継続的に自分たちにできる活動を考えたり、自分の生活を振り返ったりすることができるようにする。
- ・ 単元全体を通して、絶えず「幸せの価値観」について考えさせることにより、自分の中の幸せの価値観の変化に気づくことができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。」ための工夫

- ・ 「相手が喜んでくれる」という観点をもとに自分がしたい活動(ハートオブゴールドを通じてのカンボジア支援活動)やその理由・方法などを考えさせることにより、互いの立場や意図をはっきりとさせて友達と活動のよいところと難しいところを話し合い、活動を見直すことができるようにする。
- ・ 自分が考えた支援活動をハートオブゴールドアジア事務所の方にウェブカメラを使って相談する機会を設けることで相手の立場や気持ちを理解することができるようにする。
- ・ 異なる支援活動を考えている児童を組み合わせることで、活動の話し合いを行うことで、いろいろな考えにふれ、自分がしたい支援活動の見直しができるようにする。

目 標	自分が考えた活動（ハートオブゴールドを通じてのカンボジア支援活動）の良いところと難しいところについて友達と話し合うことにより、自分の活動を見直すことができる。	
学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○本時は自分が考えた活動の良いところと難しいところについて友達と話し合い、自分の活動を見直すことであることを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分の考えた活動の「良いところ」と「難しいところ」を友達と話し合っ て、自分の活動を見直そう。 </div>		
2 自分の活動を友達に紹介し、友達の「よいところ」と「難しいところ」を考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめに、教師が具体的な活動の例を示し、話し合いの観点について児童に考えさせることにより、本時の活動の見通しをもてるようにする。 ○事前に、活動したいことやその理由、相手や方法を考えて書かせておくことにより、話し合い活動をスムーズに行うことができるようにする。 ○話し合いの時に、友達からいろいろな意見を出してもらうために、あえて自分の活動の良いところと難しいところは発表しないようにする。 ○<u>活動の「良いところ」や「難しいところ」を色分けされた付箋に書くことにより、考えを見直しやすくする。</u> ○<u>意図的に異なる活動を考えている児童を組み合わせることにより、客観的に「良いところ」や「難しいところ」が見つけられるようにする。</u> 	○友達の考えた活動の「良いところ」「難しいところ」について考えることができる。 (観察・付箋・発表)
3 友達の意見をもとに自分が考えた活動を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>「喜んでもらえる」「実現可能」という2つの観点から活動を見直すことで、相手意識をもった活動になるようにする。</u> ○最初の考えや理由を書いたワークシートを続けて使うことで、自分の考えの足あとが残るようにする。 	○友達の意見をもとに自分の活動を見直すことができる。 (観察・発表・ワークシート)
4 見直した活動を紹介する。	○見直した活動を話し合うことで、友達の新たな考えにふれることができるようにする。	
5 本時のまとめをする。	○ワークシートに本時の振り返りを書かせ、本時のまとめとする。	

員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしよとすることができ。(実践力) ESD ⑥
 ○学習を通して考えたことや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり、「これからどうあれはよいか」など、自分のかかわり方を考えたりして生活に活かすことができる。(実践力) ESD ⑥
 ○互いの立場や気持ちを持して理解しあかかわることができ。(かかわる力) ESD ⑤
 ○調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。(課題解決力) ESD ④

学習過程	児童の学習活動	児童の意識の流れ	他教科との関連	その他
<p>世界の問題について考えよう。</p>	<p>テーマ「いろいろな国の現状を知り、その問題について考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幸せについて考える。 ○世界の子どもたちの現実を知る。 ・DVDや本「世界がもし100人の村だったら」・感想や疑問をまとめる。 ○ハートオブゴールド(HG)代表田代さんの話を聞く。 ・HGの活動について知る。 ・昨年度の物資支援活動について知る。 ○UNIQLO「服のチカラプロジェクト」について話を聞く。 ・世界の状況やカンボジアの人たちの生活の様子を知る。 ・服のチカラプロジェクト」の取組について知る。 ○HG施設NCCCの子どもたちとの交流 ・お揃いのミサンカやシュッシュュを作り、送る。 ・NCCCの子どもたちとウェブカメラで交流を行う。 	<p>・幸せ(友だちや家族がいるから、安心で安全な生活だから、笑いがあふれるから) ・嫌いな食べ物や学校に行かなくていいから、ほいほい入らなから ・他の国の人と比べると、今の自分が幸せだ。 ・競争に巻き込まれる子どももいる。 ・子どもだけで生活している人もたくさんいる。 ・自分たちにとって当たり前のことや、カンボジアでは普通ではない。 ・学校では生徒が860人もいるのにボールが1個しかない。 ・子どもの写真は、みんな笑顔でうれしそう。 ・カンボジアのために自分たちも何かしたい。 ・衣服にはいろいろな働きがあるんだ。服が着れず衛生的な生活が送れない人がたくさんいる。 ・UNIQLOの活動に私たちがも参加したい。 </p>	<p>道徳「世界がもし100人の村だったら」 「難民に思いをよせて」 国語「学級討論会をしよう」 ※インターネットの検索の仕方を知ろう 国語「よこそ、わたしたちの町へ」 道徳「今日たちに伝えたいこと」 「絶望の中で見つけた光」 国語「平和について考える」 道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」</p>	<p>HG UNIQLO NCCC</p>
<p>実践活動を通して、国際協力実践活動の計画を立て、実践活動をしよう。</p>	<p>テーマ「服のチカラプロジェクト」NCCCへの支援活動を実践しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際協力実践活動の計画を立て、実践活動を行う。 ・UNIQLO「服のチカラプロジェクト」に参加する。 ・HGカンボジア第1回支援活動(NCCCへタオル・石けん・歯ブラシ)を行う。 ・NCCCの子どもたちとインターネットを通じて交流する。 ○第1回支援活動を振り返る。 ・なぜ物資支援活動をしたのか考える。 	<p>・カンボジアとつながった。友達ができた。喜んでくれてとてもうれしい。 ・NCCCの子どもたちも清潔な生活が送れていないんだ。何か助けてあげられないのかな？ ・HGやユニクロが行っている活動に参加したい。 ・タオル・石けん・歯ブラシが少なすぎた。自分で考えてとてもうれしい。 ・衛生的な生活をするために服を集めよう。 ・自分たち生活が送れないからいろいろな人へ呼びかけて協力してもらおう。 ・服を集めよう。みんなは物資支援活動をしたんだろう？ ・自分たちも服を集めよう。みんなは物資支援活動をしたんだろう？ ・自分たちも服を集めよう。みんなは物資支援活動をしたんだろう？ ・自分たちも服を集めよう。みんなは物資支援活動をしたんだろう？</p>	<p>道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」</p>	<p>HG UNIQLO NCCC 第三藤田小学校 第二藤田小学校 第一藤田小学校 藤田中学校</p>
<p>実践活動を通して、国際協力実践活動の計画を立て、実践活動をしよう。</p>	<p>テーマ「カンボジアの人に喜んでもらえる活動を、自分たちで考えて、実践しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第2回支援活動を考える。 ・1回目の活動をもとに、2回目の活動をどのようにしていくか考える。(本時) ・話し合ったことをもとに活動内容を決め、実践していく。 ○HG事務局の方の話を聞き、第2回の支援活動を決定し、行う。 ・自分たちが考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかどうかHG事務局に質問する。 ・第2回支援活動(なわとび、バレーボール)を行う。 	<p>・自分たちで考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかどうかHGの方に聞いてみよう。 ・近隣の学校や施設にも呼びかけよう。 ・自分たちのできる範囲でもやってみよう。 ・自分たちの活動がカンボジアの人に喜んでもらえるかどうかHGの方に聞いてみよう。 ・自分たちの活動がカンボジアの人に喜んでもらえるかどうかHGの方に聞いてみよう。 ・自分たちの活動がカンボジアの人に喜んでもらえるかどうかHGの方に聞いてみよう。</p>	<p>道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」</p>	<p>HG UNIQLO NCCC 第三藤田小学校 藤田公民館 など</p>
<p>活動を通して、国際協力実践活動の計画を立て、実践活動をしよう。</p>	<p>テーマ「方との交流会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HGの方との交流会 ・HG留学生にカンボジアでの生活や日本の生活との違いや面白いことや問題についてお話ししていただく。 ○実践活動をもとめる。 ・その活動が自分たちにとって得るものはあるのかを考える。 ・今後も継続的に続けることができることを考え、自分の生活を振り返る。 ○実践を文、写真や映像を活用して分かりやすくまとめ、5年生や地域のの人に伝える。 	<p>・自分たちで考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかどうかHGの方に聞いてみよう。 ・近隣の学校や施設にも呼びかけよう。 ・自分たちのできる範囲でもやってみよう。 ・自分たちの活動がカンボジアの人に喜んでもらえるかどうかHGの方に聞いてみよう。 ・自分たちの活動がカンボジアの人に喜んでもらえるかどうかHGの方に聞いてみよう。</p>	<p>道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の架け橋に」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」</p>	<p>HG UNIQLO NCCC 第三藤田小学校 藤田公民館 など</p>

<成果と課題>

(1年生)

○実際に校庭にいる昆虫を捕まえたり、観察したり、飼育したりする活動をしっかりとさせたことで、生き物に親しみをもつとともに、生命の大切さを学ぶことができた。

○身の周りの秋の自然を探したり、自然物で遊んだりすることにより、自然に親しむことができた。また、どんぐりを利用したおもちゃで遊ぶ際には、保育園の人を招待して交流を深めることができた。

●昔遊びや自分の成長を振り返る活動をうまくつなげて、地域の人と交流を深めるような単元構成を考えていけたらと思う。



(2年生)

○地域のパトロール隊の方々に、「うごくおもちゃ」の作り方を教えてもらい、さらにおもちゃ祭りにも参加していただいたので、地域の身近な人々と交流することができた。

○クラスの友達と遊ぶ→1年生と遊ぶ→保育園児や地域の方を招待しておもちゃ祭りを行うという段階を踏むことで、活動や相手意識が広がり、工夫をすることができた。

●おもちゃ作りの工夫について話し合いの場を設定し、遊び方のルールや場作りの工夫だけでなく、おもちゃの仕組みについての気づきを広げる場を入れることで、さらに意欲を高める単元構成を作れるとよいと思う。



(3年生)

○子どもたちにとって身近な地域を体験を通して学ぶことで、意欲をもって学習に取り組むことができた。

○地域の農業だけでなく、それを加工して地産地消に貢献している方々についても学んだことで、さらに地域への愛着を深めることができた。

●初めての総合的な学習であるので、細かい段階を踏んで、活動が深まっていくように単元構想を工夫していきたい。

●実際に、見たり聞いたり活動したりする中から気づいたり、つかんだりできるよう、体験活動を大切にしていきたい。

●調べ学習を進めていく中で、作物そのものに目が向き、それを作る人に意識を向けるのが難しかった。教師も子どもも明確な課題をもち、見通しをもって進めていくことが大切である。



(4年生)

○様々な環境教室や福祉体験教室を通して、リサイクルを体験したり、車いすやアイマスクを使って、体や目の不自由な人の気持ちを体験したり、実際に活動したりすることで、自分の考えをもったり、自分にできることを考えて実践したりすることができた。

○環境活動や福祉に携わっている人や障害をもっている人、高齢者などと実際に交流することでより身近な問題であり、自分の生活と結びついていることに気がつくことができた。それと同時にそれが「藤田をやさしいまちにしたい」という実践活動への意欲につながった。

●出前講座や体験活動を、受け身にならないよう児童の思いが繋がった効果的なものにするために単元構想や時期を見直す必要がある。

●社会科や国語科とのつながりや違いを意識して進めることで、ねらいを明確にしたい。

●地域とのつながりをもっとはっきり出せるように、連携できるところを増やし、交流活動や実践活動を増やしていきたい。



(5年生)

○バケツ稲による実験や、お米の食べ比べ、アンケート調査などの体験学習を大切にしたので、得た情報を自分の中で消化し、説得力のある提案書を書くことができた。

○農業に関わっている様々な立場の方からいろいろなお話を聞くことで、日本の農業問題を身近に感じたり、地域の農業に興味をもったりする児童が増えた。

○作成した提案書についてメリット・デメリットを考えたり、農業後継者クラブの方と意見を交わしたりすることで、農家の方の思いを知り、「食」の大切さや、藤田という地域のすばらしさに気づくことができた。

●後継者問題、経済的問題、TPPの問題など、農業の抱える問題は大変難しい。その中で小学校5年生の子どもたちにどこまで考えさせればよいのかが課題である。子どもたちが農業に明るい展望をもったり、豊かな発想で提案書の作成ができたりするようにしていきたい。

●藤田の農業に関わる人達の思いにふれたり、自分の住む藤田の素晴らしさには気づいたりすることができるが、それを自分の生活とつなげて考えたり活かしたりすることは難しい。引き続きその手だてについて研究していきたい。



(6年生)

○昨年度末に、6年活から活動について話を聞いていたので、見通しをもつことができ、導入をスムーズに行うことができた。

○ハートオブゴールドの方やカンボジア研修員の方から、直接世界の現状についての話を聞くことで、遠くのことだと思っていたことを身近に感じ、今の自分の生活を振り返るきっかけとなった。

○カンボジア教育省の方に直接相談しながら、支援活動の計画を立てることができたので、児童はより相手の立場に立って活動を考え、実践することができた。

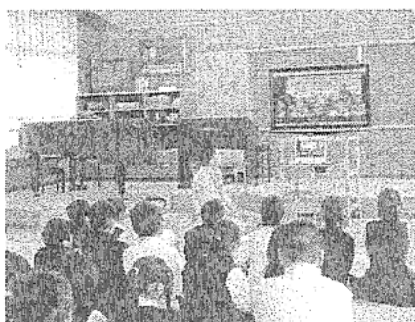
○支援活動後、ハートオブゴールドや現地の方から手紙をいただいたり報告をしていただいたりして自分たちの支援活動が喜んでもらえたことを実感することで、幸せについて考えたり、自分たちの生活を振り返ったりすることができた。

●今年度、ユニクロの活動にも参加したが、今年のみ単発の活動であることや、活動が複数に渡り、子ども達の意識の流れが繋がらなかったため、来年度はハートオブゴールドだけにしぼりたい。

●物資支援活動を何年も続けてきているので、6年生の活動が校内には浸透してきたが、反面マンネリ化してきている。活動の見直しが必要である。

●今年度、自分たちにできる活動を考える際、昨年度交流のあったカンボジア教育省の先生にスカイプを使って相談することができたが、来年度の児童はこの先生とまったく面識がない。引き続きハートオブゴールドと連携しながら、来年度以降もこのような機会がもてるようにしていきたい。

●児童は、相手の立場に立って考えることはできたが、今の自分を振り返ったり、生活に活かしたりすることはできていない。その手だてについては引き続き研究を進めたい。



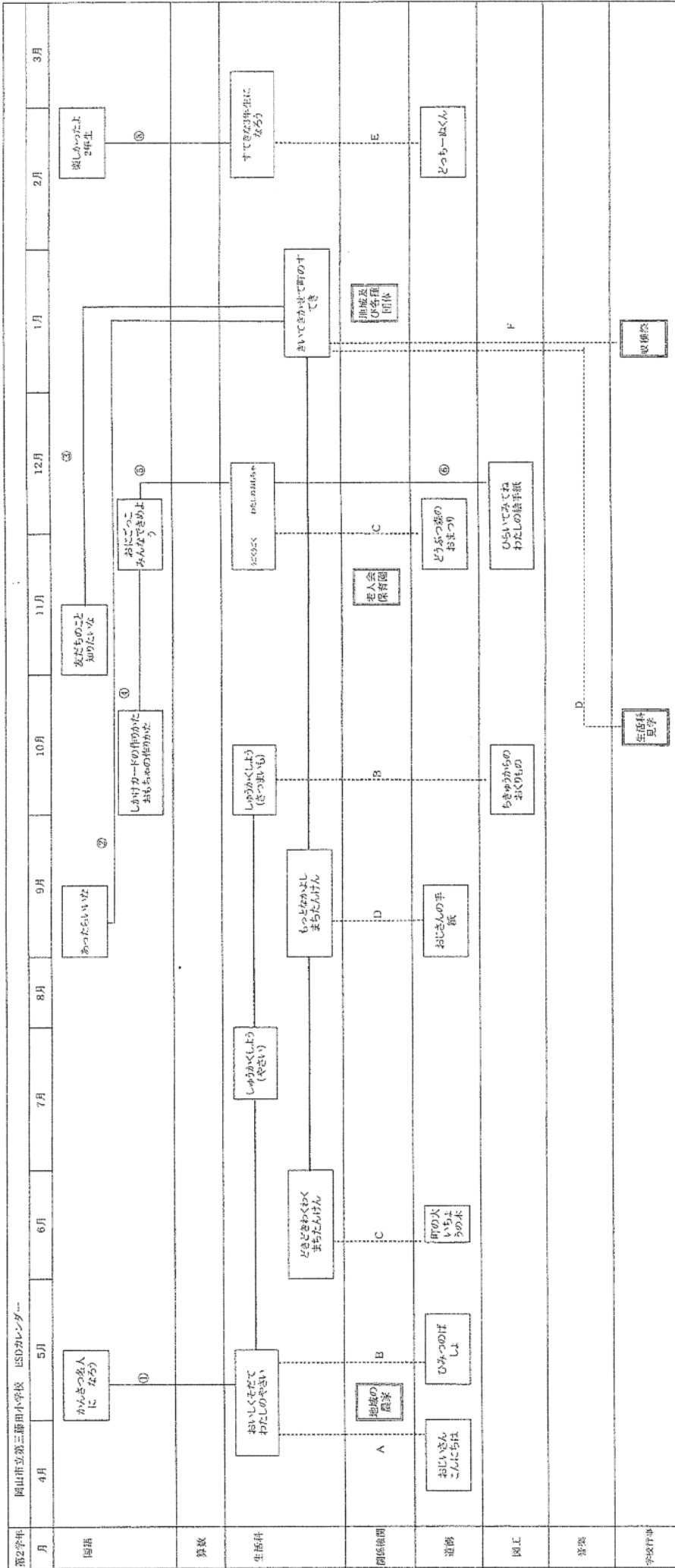
第1学年	岡山市立第二藤田小学校 ESDカレンダー											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	もぞり でばな たう	おはな はなそ う	はなの みち	こんかいしをみ つけたよ	おほはし みいつた	しらばいな 見せたいな	おみせ やせん こっこ おしよ	どろぶつ おみせ やせん こっこ おしよ	いよいよ いよいよ いよいよ	いよいよ いよいよ いよいよ	いよいよ いよいよ いよいよ	いよいよ いよいよ いよいよ
算数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
生活科	がっこうだいき	おはな はなそ う	はなの みち	こんかいしをみ つけたよ	おほはし みいつた	しらばいな 見せたいな	おみせ やせん こっこ おしよ	どろぶつ おみせ やせん こっこ おしよ	いよいよ いよいよ いよいよ	いよいよ いよいよ いよいよ	いよいよ いよいよ いよいよ	いよいよ いよいよ いよいよ
朝歌	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
道徳	たのし いかつ ごう	うちの さん さま	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた	ぼんご の うた
図工	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま	しぜん と な か ま
音楽												
学校行事	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧	祝賀 遊 覧

内閣・心掛面

問題内容
A 要校心
B 動物園を大切にしよう
C 自分のできることをもがまんはる気持ち
D 礼儀正しく、まもりのよいあいさつをしよう
E 友だちや自然にかかわり、自分の思いを表現しよう
F 自分の思いや願いを工夫して活動しよう
G 今までの経験を活かして工夫して活動しよう
H 成長に気づく

技能面

問題内容
① 2人で話す、聞く。
② 自然にかかわり、気づいたことを書き、発表する。
③ グループで話す、聞く。
④ 発表のし方、聞き方。
⑤ たずねたり、応答したりする。
⑥ 理由を付けて自分の考えを言う。
⑦ 書くテーマに必要な事柄を組が継続したことを書き、伝える。



内容・心構え

A	きれいよあそび、言葉遊び、動作を心かける。
B	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。
C	郷土の文化や生活に親しみ、愛着を持つ。
D	公共の場では、約束やまわりを守る。
E	友達と仲よくし、助け合う。
F	地域の人のつながり。

技能面

①	丁寧に観察し、気づいたことやわかったことを集める。
②	事物の説明をしたり、説明を聞いて感動を伝える。
③	情報を考えて、紹介文を書く。
④	説明の仕方を考える。
⑤	互いの話を聞き、話題に沿って話し合う。
⑥	自分の気持ちを伝える。
⑦	経験したことを、情報を考えながら書く。

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
国語	水で潤べてほぐしくし う	しりからわ かつたことを飛 表しよう		すがたをかえる大皿					② 気になる図号 報告書の書き 方	よい順番に なるう	
社会	⑤ 今に飛ぶ昔と今の くらしのつりかわり		G	人々のくらしをかえること					① たんけんしつぱつ 学医のようす		
算数	④ 表と グラフ		E								
理科	③			育ち方を調へよう					どれくらい育っ たかな		
総合				③ 三藤のお宝って何だろう?					③ 三藤のお宝って何だろう?		
図画・造形				④ れんこん観察						いもご 観察	④ れんこん観察
道徳											
音楽											
学級行事											

月	1月	2月	3月
国語			
社会			
算数			
理科			
音楽			
学級行事			

- 関係内容
- ① 国語の読み方
 - ② 報告書の書き方
 - ③ 表の見方、書き方
 - ④ 資料からわかったことの発表の仕方
 - ⑤ 百科事典や図鑑の使い方

- 関係内容
- A 学区について知る。
 - B 植物の育ちを知る。
 - C 植物の育ちを知る。
 - D 紙上に習む。
 - E 人々のくらしを支える仕事を知る。
 - F くらしを支える仕事をしている人に感謝・尊敬の気持ちをもち、
 - G 大豆について知る。
 - H ものづくりで使っている人の苦労や工夫
 - I 大豆を加工するための昔の道具について知る。

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	① 読みよみの大会	② 調べたことを報告する文庫を作ろう	③ 新聞を作ろう	④ アップとリリースで伝える	⑤ 手と心で歌おう	⑥ アップとリリースで伝える	⑦ 聞き取りゲームの上昇	⑧ 聞き取りゲームの上昇	⑨ 聞き取りゲームの上昇	⑩ 聞き取りゲームの上昇	⑪ 聞き取りゲームの上昇	⑫ 聞き取りゲームの上昇
社会	⑬ 町のまちづくり	⑭ 町のまちづくり	⑮ 町のまちづくり	⑯ 町のまちづくり	⑰ 町のまちづくり	⑱ 町のまちづくり	⑲ 町のまちづくり	⑳ 町のまちづくり	㉑ 町のまちづくり	㉒ 町のまちづくり	㉓ 町のまちづくり	㉔ 町のまちづくり
算数	⑵ 数のつくり	⑶ 数のつくり	⑷ 数のつくり	⑸ 数のつくり	⑹ 数のつくり	⑺ 数のつくり	⑽ 数のつくり	⑾ 数のつくり	⑿ 数のつくり	⓫ 数のつくり	⓬ 数のつくり	⓭ 数のつくり
理科	⑮ 自然の不思議	⑯ 自然の不思議	⑰ 自然の不思議	⑱ 自然の不思議	⑲ 自然の不思議	⑳ 自然の不思議	㉑ 自然の不思議	㉒ 自然の不思議	㉓ 自然の不思議	㉔ 自然の不思議	㉕ 自然の不思議	㉖ 自然の不思議
総合	⑲ 自然の不思議	⑳ 自然の不思議	㉑ 自然の不思議	㉒ 自然の不思議	㉓ 自然の不思議	㉔ 自然の不思議	㉕ 自然の不思議	㉖ 自然の不思議	㉗ 自然の不思議	㉘ 自然の不思議	㉙ 自然の不思議	㉚ 自然の不思議
図画・工作	⑶ 紙のつくり	⑷ 紙のつくり	⑸ 紙のつくり	⑹ 紙のつくり	⑺ 紙のつくり	⑽ 紙のつくり	⑾ 紙のつくり	⑿ 紙のつくり	⓫ 紙のつくり	⓬ 紙のつくり	⓭ 紙のつくり	⓮ 紙のつくり
道徳	⑲ 自然の不思議	⑳ 自然の不思議	㉑ 自然の不思議	㉒ 自然の不思議	㉓ 自然の不思議	㉔ 自然の不思議	㉕ 自然の不思議	㉖ 自然の不思議	㉗ 自然の不思議	㉘ 自然の不思議	㉙ 自然の不思議	㉚ 自然の不思議
音楽	⑲ 自然の不思議	⑳ 自然の不思議	㉑ 自然の不思議	㉒ 自然の不思議	㉓ 自然の不思議	㉔ 自然の不思議	㉕ 自然の不思議	㉖ 自然の不思議	㉗ 自然の不思議	㉘ 自然の不思議	㉙ 自然の不思議	㉚ 自然の不思議
学習行事	⑲ 自然の不思議	⑳ 自然の不思議	㉑ 自然の不思議	㉒ 自然の不思議	㉓ 自然の不思議	㉔ 自然の不思議	㉕ 自然の不思議	㉖ 自然の不思議	㉗ 自然の不思議	㉘ 自然の不思議	㉙ 自然の不思議	㉚ 自然の不思議

内容・心構面

A	ごみのしまつと活用
B	目の不自由な人
C	ごみのしまつ
D	ごみ問題
E	高齢者や体の不自由な人
F	体の不自由な人
G	目の不自由な人
H	バリアフリー
I	障害への思い
J	リサイクル

後面

①	話し合いの仕方
②	アンケートの取り方 報告のまとめ方
③	新聞の作り方
④	資料の効果的な使い方
⑤	メモの取り方
⑥	折れ線グラフの読み方

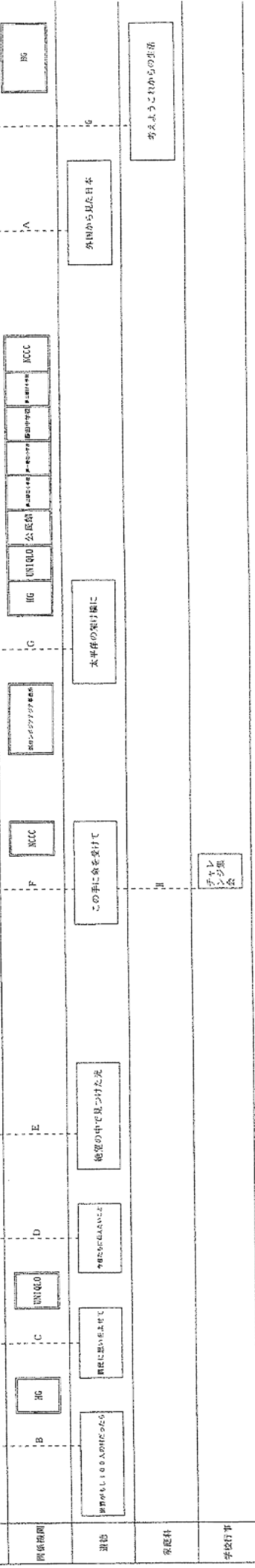
第5学年	岡山県立第三藤田小学校 ESDカレンダー											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	きていて、きいて、書いてみよう	次への一歩 活動報告書	わがまちの土物(愛媛県産) 産菜	わたしたちの(愛媛県産)産菜	インターネットを働かせてみる	天気や季節を引用して詩こう	すいせんします					
社会	来作りのさかんな地域	さまざまな土物のくらし	水産業のさかんな地域	これからの食料生産	④	④	④					
算数	B	C	E	F	F	F	F					
理科	A		D	D	D	D	D					
総合	藤田の産菜について話し合おう											
朝顔新聞	種もみ農家の方 農業後継者クラブ	H	興陽高校	興陽高校 J 種もみ農家 大別農産部	興陽高校 J 種もみ農家 大別農産部	興陽高校 J 種もみ農家 大別農産部	興陽高校 J 種もみ農家 大別農産部					
道徳	G		I	I	I	I	I					
家庭科	お米のよさを 知ろう(食育)		お米のよさを 知ろう(食育)	お米のよさを 知ろう(食育)	お米のよさを 知ろう(食育)	お米のよさを 知ろう(食育)	お米のよさを 知ろう(食育)					
学校行事	芽だし	もみまき	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え					

内容・心構え	関連内容
① インタビューの仕方	A 植物の産手と生産に必要なもの
② 報告書の書き方	B 現在の米作りの問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫
③ インターネットで調べるときの注意	C それぞれの土物にあった農業やくらし方の工夫
④ グラフや表の引用の仕方	D 実がてきとくみ
⑤ 割合の求め方、それを使ったグラフの書き方、	E 水産業における問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫を米作りと比べる
⑥ ご飯の炊き方	F 食料生産をよりよくするためのさまざまな取組で、今後の問題点
⑦ 提案書の書き方	G お米のつづきや日本食のよさ
⑧ 算数の求め方	H 先人の努力を知り、郷土を愛する気持ち
⑨ 推薦するよきの話し方	I お米の産菜について
	J 先人の努力を知り、郷土を愛する気持ち

第6学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	学級討論会をし よう	学級討論会をし よう	ようこそ わたしたちの町 へ	平和について考える								
社会									アジア太平洋に広がる戦争		世界中の日本とわたしたち	
算数									資料の調べ方			
理科												私たちにできることを考 えよう
総合												
道徳												
家庭科												
学校行事												

『 幸 せ っ て 何 ？ 』
国際協力実践活動の計画を立てて、実践活動をしよう。

世界の諸問題について考えよう。



内容・心構面

問題内容	問題内容
A 世界の人の暮らした様子や国について知る。	A 世界の人の暮らした様子や国について知る。
B 世界の国の現状について知る。	B 世界の国の現状について知る。
C 海外の問題に目を向け、国際社会に貢献していくこととする心構えを養う。	C 海外の問題に目を向け、国際社会に貢献していくこととする心構えを養う。
D アジアの貧しさの中で生活をしている子どもたちの様子を知る。	D アジアの貧しさの中で生活をしている子どもたちの様子を知る。
E 生命がかけがえないものであることを知り、自他の命を尊重する。	E 生命がかけがえないものであることを知り、自他の命を尊重する。
F 命のかけがえのなさを知り、自他の命を尊重しようとする心構えを育てる。	F 命のかけがえのなさを知り、自他の命を尊重しようとする心構えを育てる。
G 自分たちの生活をより豊かに、よりよくするための工夫を考える。	G 自分たちの生活をより豊かに、よりよくするための工夫を考える。
H たくさん人が集まる場でのように呼びかけていくかを考える。	H たくさん人が集まる場でのように呼びかけていくかを考える。

技能源

問題内容	問題内容
① 相手の立場を聞き取り、自分の主張を伝える。	① 相手の立場を聞き取り、自分の主張を伝える。
② 調べたことを、短い文章でまとめる。	② 調べたことを、短い文章でまとめる。
③ 卓見の書き方、スピーチの仕方を知る。	③ 卓見の書き方、スピーチの仕方を知る。
④ 統計の読み方や書き方を知る。	④ 統計の読み方や書き方を知る。

評価規準 3年生

		他者とのかかわり		自分とのかかわり	
		かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○藤田学区の農家の様子や農作物に興味をもって見学することができる。	○「三藤のお宝は何か？」について、友だちと話し合うことができる。	○「三藤のお宝は何か？」について、友だちと話合えることができる。	○「三藤のお宝は何か？」について、自分の考えをもつことができる。	○学区の農家について調べて調べたことについて、発表することができる。
つかむ	○レンコン農家の見学を通して、不思議に思ったことや興味があることを見つけることができる。	○レンコン農家の見学で、質問をしたり感想を言ったりすることができる。	○レンコン農家の見学で、質問をしたり感想を言ったりすることができる。	○いちご農家や玉ねぎ農家の見学の経験を生かして、レンコン農家について調べたいことを考えることができる。	○学区の農家について進んで調べることができる。
追求する	○レンコン農家の学習を通して、農家の方が今まで昔労や工夫をしてきたことや、レンコン作りに対して思いに気づくことができる。	○学区のレンコン農家について学んだことをもとに、さらに学習を深めるための質問をすることができる。	○学区のレンコン農家について学んだことをもとに、さらに学習を深めるための質問をすることができる。	○レンコン農家の学習で調べたことを、新聞にまとめることができる。	○自分なりの課題をもって、2回目の取材をすることができる。
活かす	○藤田で作られている農作物や、藤田のために努力を続けている人たちが藤田の宝物であることに気づくことができる。	○今までの活動を整理して、わかりやすく発表することができる。	○今までの活動を整理して、わかりやすく発表することができる。	○今までの活動を振り返り、農家やJA女性部の方々が何を大切にしているかを考えることができる。	○自分たちが見つけた「三藤のお宝」について、広めることができる。

評価規準 4年生

		他者とのかかわり		自分とのかかわり	
		かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○藤田は自然や人にやさしいまちなのか、身の回りにある様々な課題について考えることができる。	○身の回りにある様々な課題について友だちや家族と話し合うことができる。	○身の回りにある様々な課題について友だちや家族と話し合うことができる。	○どんなまちがやさしいまちなのか具体的に考えをもつことができる。	○身の回りにある様々な課題について、インタビューや取材をすることができる。
つかむ	○調査活動や体験活動、インタビューなど自分のまわりの人や地域の自然環境に進んでかかわることができる。	○調査活動や体験活動の中で意見や感想を言ったり、質問したりすることができる。	○調査活動や体験活動の中で意見や感想を言ったり、質問したりすることができる。	○調査活動や体験活動を通して、やさしいまちづくりのための課題を見つたり、解決方法を考えることができる。	○調査活動や体験活動に進んで取り組むことができる。
追求する	○調査活動や体験活動を通して、自分にできそうなことを考え、各家庭で実践することができる。	○今までの調査活動や体験活動をもとに自分たちのできる活動を考え、友だちの意見との共通点や相違点を考えながら話し合うことができる。	○今までの調査活動や体験活動を通して、自分たちのできる活動を見直し、自分たちのできることを考えることができる。	○様々な調査活動や体験活動を通して、環境や福祉の課題とその解決方法を考えることができる。	○自分なりの解決方法を計画、実践することができる。
活かす	○自分たちのできる活動をする中で身近な環境や高齢者に進んでかかわることができる。	○今までの活動を振り返り、整理し、新聞等にまとめ発表することができる。	○今までの活動を見直し、自分たちのできることを考えることができる。	○自分たちの生活を見直し、自分たちのできることを考えることができる。	○やさしいまちづくりのために、地域への啓発活動や学校や家庭でできることを実践できる。

評価規準 5年生

	他者とのかかわり		自分とのかかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○地域の方に手順や注意点を教わりながら、実際にのみまきをすることができる。	○「藤田に米作りが必要か？」について、友達と話し合うことができる。	○「藤田に米作りが必要か？」についての自分の考えとその理由をもつことができる。	○「藤田の米作り」についてあまり知らない自分に気づくことができる。
つかむ	○農家の方への取材を通して、藤田の農家の考えが考えられる「農業の楽しさ」や「農業の問題点」に気づくことができる。	○藤田の米作りの「よい点」と「問題点」について、質問したり自分の考えを話したりすることができる。	○農家の方のお話や苗作りの体験から、「20年後の藤田の米作りがどうなるとよいか」についての提案を考えることができる。	○藤田の米作りを継続・発展させるためにはどうすればよいかを考えることができる。
追求する	○パケツ稲による実験やフィールドワークでの取材を通して、提案書を作成する上で必要なことを調べることができる。 ○パケツ稲や学校田での米作りに取り組むことができる。	○フィールドワークなどで、自分の調べたい内容について、質問することができる。	○自分のしたい提案に沿って、調べる内容や方法を考えたり選んだりして調べることができる。 ○取材や実験などを通して調べた事実を整理・分析して、それを元に自分の考えを提案書にまとめることができる。	○フィールドワークなどで教わったことを、学校田やパケツ稲の栽培で活かすことができる。
活かす	○日本の農業問題が、今の自分の生活とつながっていることに気づくことができる。	○自分の提案について、資料を提示しながら相手にわかりやすく発表することができる。 ○「20年後の藤田の米作りが持続するための方法」について、提案書をもとに農業後継者クラブの人と意見交換することができる。	○提案を見直す活動や後継者クラブの方との意見交換を通して、農家の方が何を大切にしているのかを考えることができる。	○20年後の藤田の米作りを継続するために、今の自分のできることを考えて実践したり、自分の生活を振り返ったりすることができる。

評価規準 6年生

	他者とのかかわり		自分とのかかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○ハートオポゴールドの方から話を聞き、世界の子どもたちの諸問題について知ることができる。	○「幸せ」について、友だちと話し合うことができ る。	○「幸せ」についての自分の考えとその理由をもつことができる。	○現在の生活は、世界の中では当たり前ではないということに気づくことができる。
つかむ	○NCCCの子どもたちの気持ちを理解して積極的に関わることができる。 ○1回目の支援活動に積極的に取り組むことができる。	○NCCCの子どもたちと互いに自分の思いを伝えたり質問したりする。	○ハートオポゴールドの活動を聞き、自分にできることは何か考えることができる。	○まわりに働きかけながら、カンボジア支援活動を実践することができる。
追求する	○2回目の支援活動に積極的に取り組むことができる。	○お互いの活動の「よいところ」と「難しいところ」について話し合うことができる。 ○自分が考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかHIG事務局の方に質問することができる。	○1回目の支援活動の振り返りやカンボジアの現状をもとに、「カンボジアの人たちに喜んでもらえる活動」を考えることができる。	○まわりに働きかけながら、カンボジア支援活動を実践することができる。
活かす	○自分たちが行ってきた活動を通して、社会への関心を広げることができる。	○これまで学習してきたことを、資料を提示しながら活動の報告をすることができる。	○これまでの学習を振り返り「幸せ」についての考えをもち、これからの自分のできることを考えることができる。	○2回の支援活動やカンボジアとの交流を通して培った考えや思いを自分の生活と重ねて考え、これからの生活に活かすことができる。

平成24年10月18日 (木) 5校時 指導者 菅井 憲人

1 単元名 「幸せって何？」(国際理解)

2 単元目標

- 世界中の人々とのつながりを意識しながら、友だちや家族、地域といった自分に身近なところに働きかけ、自分ができる活動をしようとするができる。
- 世界の国々の現状や諸問題を学習することにより、自分のことや自分の生活のことに気づき、その気づきを自分の生活に活かそうとすることができる。
- つねに自分の考えや思いをもち、互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。

3 児童の実態

学習の始めに児童に自分のことについてアンケートを行った。今自分が幸せかどうかという問いに対し、幸せと答えた子どもは14人、幸せでないと答えた児童が3人であった。どんな生活が幸せなのか問うと、「震災が来ない生活」「家族や友だちと仲良く楽しい生活」「安全な生活」などが挙げられた。一方幸せでないと答えた児童は「お金がないから」「欲しいものが手に入らないから」という答えだった。そのアンケート結果から「自分たちが幸せ・幸せではないと思っていることと、他の世界の人も同じなんだろうか」という課題をもたせ、1学期には「もし世界が100人の村だったら」のビデオを視聴して、世界で起こっている諸問題について一人ひとりが課題をもって調べ学習を行った。またハートオブゴールドの方から話を聞き、カンボジアの状況や世界の現状について教えていただくことで、自分たちは当たり前前の生活だと思っていたことがそうではないことに気づき、自分たちも何か物資支援活動がしたいという気持ちになった。

そこで、2学期になって物資支援活動を行った。さらに、「カンボジアの人たちに喜んでもらえる活動を考えて実践しよう」という課題をもち、次はどんな活動をすればよいのかについて考えていく。実際に留学生の方にカンボジアの生活や子どもの様子などを教えていただき、どんな活動が喜ばれるのかについて考えさせたい。そして留学生の方のアドバイスをもらいながら、その活動を見直していく中で、自分たちの生活と比べたり、相手の想いに寄り添ったりできることを期待している。

4 単元について

藤田中学校区における6年生の総合的な学習の時間の共通テーマは「幸せって何？」である。

児童は4年生の総合的な学習の時間に、障がいのある方が生活の中で困っていることについて調べ「自分たちにできること」について考えてきている。

そこで本単元では世界の諸問題に目を向け、NPO団体や留学生から実際に話を聞きながら、相手に喜んでもらえる国際協力実践活動を考えて実践する。この活動を通して、児童は様々な国の人の思いや生活の様子について深く知り、相手の立場に立って考えたり関わったりすることの大切さに気づくことができると考えた。さらに世界の人々と自分を比べることで、自分の生活を振り返るきっかけとしたい。

「ふれる」段階では、「自分たちが幸せ・幸せではないと思っていることと、他の世界の人も同じなんだろうか」という課題をもち、一人ひとりが世界の諸問題について調べ学習を行う。NPO団体であるハートオブゴールドの方の話を聞くことで、「自分たちにできる国際協力実践活動をしたい」という思いをもたせたい。

「つかむ」段階では、ハートオブゴールドの方の話をもとに、物資支援活動を行う。留学生にその活動を認めてもらえることで「さらに活動したい」という意欲がもてることを考える。

「追求する」段階では、留学生から聞いたカンボジアの暮らしや子どもたちの様子から、「カンボジアの人たちに喜んでもらえる活動をしよう」という課題をもち、活動したいことやその理由を考える。実際に留学生に何度もアドバイスをもらったり、カンボジアについてくわしく教わったりする。「喜んでもらえる」という観点から自分の活動をくり返し見直すことで、さらにカンボジアの人への思いを深めさせたい。

「生かす」段階では、ハートオブゴールドの方から届けていただいた物資等の報告をしていただく。実際に喜んでもらったことを実感することで、達成感を味わわせる。同時にこの活動をしたことで、自分たちも幸せな気持ちになれる活動であったことに気づかせる。

さらに自分たちの実践をまとめ、活動の感想を書かせることでこの支援活動が自分たちにとってどんな意味があるのかについて実感させる。そして自分の生活を振り返るきっかけとしたい。

5 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人、社会、自然など自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子ども育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

『学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり、「これからどうあればよいか」など、自分のかかわり方を考えたりして生活に活かすことができる。』

・カンボジア留学生のアドバイスから、自分の考えた活動を「相手が喜んでくれる」ように見直させることで、「自分だったら」と考える機会をつくる。そうすることで、今の自分の生活を振り返り、見直すことができるようにする。

・支援活動を行った後、カンボジアでの様子を返していただくことで、相手とつながる喜びを実感し、今後も継続的に自分たちにできる活動を考えることで、自分の生活を振り返ることができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

『相手の立場や気持ちを理解して、かかわることができる。』

・現地の様子を聞いたり相手の様子を伝えてもらうなど、実際に交流することができようハートオブゴールドとの連携をはかる。

・実際に支援活動を行っているハートオブゴールドの方や、カンボジア留学生から、直接何度も話を聞く機会を設けることで、少しでも相手の立場や気持ちを理解することができるようにする。

・相手に喜んでもらえる活動を考えたり見直したりするために、自分をあてはめて考えさせることで、相手の生活を理解したり、気持ちに寄り添ったりすることができるようにする。

6 本時の学習について

本時は、追求する段階「カンボジアの人に喜んでもらえる活動を、自分たちで考えて実践しよう」の第3時である。前時までにはチェトラさんから聞いた話をもとに「カンボジアの人たちに喜んでもらえる」という観点で活動したいことやその理由を考えた。本時では、1回目の物資支援活動をもとに、2回目の支援活動について考える。実際にチェトラさんにアドバイスをいただき、自分の活動を見直すことで、さらにカンボジアの人への思いを深めさせたい。

7 本時案

<p>目標 チェトラさんから話を聞くことにより、自分で考えた活動をより深く見直したり、カンボジアへの思いを深めたりすることができる。</p>		
学習活動	教師の支援	評価・備考
<p>1 学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p>	<p>○本時は自分が考えた活動が「カンボジアの人に喜んでもらえるか」をチェトラさんに聞き、自分の活動を見直すことを確認する。</p>	<p>・総合ファイル ・ワークシート</p>
<p>自分が考えた活動についてチェトラさんにアドバイスをもらい、自分の活動を見直そう。</p>		
<p>2 チェトラさんから話を聞く。</p>	<p>○はじめに教師が、「1回目の支援活動はカンボジアの人に喜んでくれますか。」と質問することにより、2回目の活動への意欲を高めたり、児童が質問しやすい雰囲気づくりができるようにする。</p> <p>○活動したいことやその理由をあらかじめ考えておくことにより、進んで質問ができるようにする。</p> <p>○児童が自分の活動を相手の立場に立って考えられるように、事前にチェトラさんと打ち合わせをしておく。</p> <p>○チェトラさんの話から新しい気づきがあった時には、取り上げて考えられるようにする。</p> <p>○教わったことに対してさらに深く質問ができている児童を称揚することで、質問への意欲を高め、考えを深めることができるようにする。</p> <p>○質問がしにくい児童に対しては教師が質問することにより、考えが深まるよう支援する。</p>	<p>○自分が考えた活動についてチェトラさんに質問することができる。 (観察・発表)</p>
<p>3 自分が考えた活動を見直す。</p>	<p>○最初の考えを書いたワークシートを使うことで、活動やその理由を見直ししやすいようにする。</p> <p>○見直した活動を紹介し合うことで、友だちの新たな考えにふれることができるようにする。</p> <p>○修正した理由を発表させることで、カンボジアの人たちが喜んでくれる活動になったことを確認する。</p>	<p>○質問やアドバイスで自分の考えを見直すことができる。(観察)</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>○ワークシートに本時の振り返りを書かせ、本時のまとめとする。</p> <p>○次時では本時で修正した活動をどのように実現していくか考えていくことを知らせる。</p>	

☆平成24年度 成果と課題

<6年生>

○海外で活動している団体 NPO 法人ハートオブゴールドと連携していくことで児童はカンボジアの諸問題についてより身近に知ることができ、また支援活動を手伝うことができた。また、様々な形でたくさんの外国の方と接する機会がもてたので、外国を身近なものに感じて、活動することができた。今年度はゲストティーチャーをハートオブゴールドにしぼって交流を行ったので、児童の課題やねらいが明確になり、活動により深く取り組むことができた。

○ハートオブゴールド海外研修員の方から、直接世界の現状についての話を聞くことで、遠くのことだと思っていたことを身近に感じることができた。また、「カンボジアの人たちに喜んでもらえる」ということを常に意識し活動を考えさせたので、相手の立場や気持ちを考えながら実践活動に取り組むことができた。

○本単元を通してたくさんの人に出会い、つながり、世界の諸問題について考え、支援活動に取り組むことで、単元のまとめとして、今までの自分の生活を振り返り、これからの生活に活かすきっかけをつくることができた。中には将来の夢として人のために役に立つ仕事をしたいと思う児童もいた。

○支援活動後に、ハートオブゴールドや現地の方からの手紙や報告をしていただくなどのつながりをもつことで、単元の最初に児童が感じていた、「ものがあえる幸せ」「平和な幸せ」に加えて、「人のために役に立つ幸せ」（心情面）に多くの児童が気づくことができた。

○活動を段階に応じて2回に分けたことで、児童の活動のめあてをより明確にすることができた。

1回目は、実際に支援活動をしている人に紹介してもらった活動を行う。

→支援活動の方法を学ぶ。(協力依頼、回収、集計、お礼等)

2回目は、自分たちで考えた活動を行う。

→どんな活動が喜んでもらえるのかを考える。

●単元を通しての課題のめあてが弱く、調べ学習が深まらない場面もあったので、来年度の6年生が学習の導入をスムーズにでき、国際についての活動を深めることができるように、今年度の取り組みを5年生にむけて発表し、知らせるようにした。

●今年度は、直接海外の方からお話を聞く機会をもつことができた。引き続きハートオブゴールドと連携しながら、来年度以降もこのような機会を設けていきたい。

●今の自分を振り返ったり、生活に生かすきっかけをつくることはできたが、実際にじっくり取り組むことは今一步である。手だてについては引き続き研究を進めたい。

●2回目の活動では、個人で活動を考えたが、すべてを実践することはできないため、活動を2つにしぼった。児童一人一人の考えをしっかりと認めることができなかったため、来年度は実践できなかったアイデアも紹介する機会を設定したい。

●支援活動を行うときに、児童から「人がたくさん集まる場面（藤田ふれあい祭り、盆踊りetc）で活動をすれば、たくさんの人に働きかけることができるのではないか」という考えが出たが、日程的に難しく実行にうつせなかった。来年度以降そのことも考慮し、見通しをもって計画的に進めたい。

<平成23年度の実践>

第3学年 総合的な学習 学習指導案

平成23年10月14日(金) 5校時

指導者 松本 容子

1 単元名 「レンコンのひみつをさぐろう」

2 単元目標

- 藤田学区でさかんな農作物としてのレンコンについて調べたり、レンコンを使った料理を作ったりすることで地域への愛着を高めることができる。
- 藤田のレンコンについて自分の課題をもち、レンコン畑の見学や農家の方へのインタビューを通して、その課題を調べていくことができる。
- 藤田のレンコンについて調べたことを発表する活動を通して、分かりやすく伝えることができる。

3 単元について

3年生は、総合的な学習の時間との出会いの学年である。この入門期の子どもたちは、自分たちの身近な学区をテーマに取り上げることで、課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ表現という探求的な学習に意欲をもって取り組むことができると考えた。また藤田中学校区では、「地域に愛着をもとう」というESDの共通のテーマを設定し取り組んでいる。

本校では例年、3年生はレンコン農家の方の話を聞いたり、地域の方と一緒にゲートボールをしたり、豆腐作りを教わったりするなどの活動をしてきた。本年度も地域の方との交流の中から地域の良さを学ぶ活動をしていく。

1学期には「サンフジのお宝をさがそう」というテーマで学習を進めてきた。学区探検をして、いちご、玉ねぎ、レタスなど学区に様々な作物を作っている名人がいて、その作物は県内外に出荷され、評価されていることを知った。さらに今回レンコン作り名人の話聞くことで、藤田の地で長年レンコン作りをしてきた思いに触れ、地域に対する愛着をさらに深めていって欲しいと思う。

本単元では、課題別グループで活動を進めていく。同じ課題をもった者どうして話し合うことで、自分の課題をよりはっきりさせることができると考えた。また、調べを進めたり、見たこと・聞いたことなどの情報を整理したりまとめたりする過程においてもよりスムーズに活動が進められると考えた。

4 児童の実態

本学級の児童は、総合的な学習にとっても意欲的に取り組んでいる。

1学期は、3つの農家を訪ね、ビニルハウスや畑を見学した。見学前には一人一人、それぞれの作物について知りたいことを考えることができた。が、質問が多岐に渡っていたため、一番知りたいことがはっきりしなかった。話は熱心に聞いていたが、活発に質問をする児童は少数で、質問をしたら意識が途切れてしまう様子も見られた。そこで今回は、課題別グループで質問を吟味することで自分の課題をはっきりもち、質問に対して予想を立てておくことで質問の答えをしっかりと聞くことができるようにする。

また、1学期は調べたことを個人で新聞を作りまとめたので、友だちと発表をする活動は初めてである。分かりやすい発表になるよう、国語科で学んだことも活用させていきたい。

5 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人、社会、自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、総合的な学習の時間では次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「自分の課題について、大まかな見通しをもって追求することができる」ために

- ・課題別グループで活動を進めていくことで、自分の課題をはっきりさせ、調べたことを整理したりまとめたりする活動をしやすくする。
- ・レンコン農家の方への質問を考える場面では、個人の考えを付箋紙に書かせることで、グループで話し合う際、分類したり比べたりしやすくする。
- ・自分の課題に対して予想を立てさせておくことで、見通しをもって活動することができるようにする。
- ・単元の導入時に藤田のレンコンを食べることで、おいしさに気付き、なぜこのようにおいしく作れるのかやどこで作られているのかどんな人が作っているのかなどの疑問をわきやすくし、興味関心をもたせる。

(2) 他者とのかかわり

「相手に分かりやすく整理して表現し、伝えることができる」ために

- ・調べたことをグループ別に発表する場を設定し、もっと詳しく説明した方がよいところや分かりやすくよかったところなどを伝え合うことができるようにする。
- ・分かりやすく発表するために、話す速さや声の大きさに気をつけることができるよう、自己評価ワークシートを用意する。
- ・より分かりやすい発表にするために、絵や図を用意させる。
- ・伝える相手を想定しながら発表内容を考えることができるよう、保護者に発表する場を設けることを知らせておく。

6 本時の学習について・・・本時でねらうこと

本時では、課題別グループ内でレンコン農家の方に質問したいことを出し合い、実際にする質問を決める活動をする。出た意見を整理しやすくするために付箋紙を活用する。質問を決める観点として、「グループの課題に合っているか」「質問しなければわからないことか」の2点を挙げることにより、話し合いをしやすくする。

7 本時案

目 標	同じグループの友だちと話し合い、観点に合った質問を考えることができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 本時のめあてを確認する。	○本時は、インタビューする質問をグループで話し合っ て決めることを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> グループで話し合っ て、レンコン作り名人にインタビューするしつ 問を決めよう。 </div>		
2 自分の考えを確認する。	○グループでの話し合いで、整理・分類しやすくする ために、自分が考えた質問を付箋紙に書かせる。 ○自分が考えた質問に対する予想を立てさせておく ことで、見通しをもって話し合いに臨むことが できるようにする。	
3 グループで話し合っ て質問を決める。	○話し合いがしやすいように、司会を決めさせ、話 し合いの進め方カードを全員に持たせる。 ○ボードに付箋紙を貼り、同じような意見をまとめ たり、ペンで囲んだりして分類させることで、意 見をまとめやすくする。 ○単純に多数決で決めてしまわないように、「グルー プの課題に合った内容か」や「質問しなければわ からないことか」という観点で決めるよう助言す る。 ○質問が決まったグループには、実際にする質問の 言葉を考えるよう助言する。 ○考えた質問を他グループに紹介する場を設け、二 つの観点に合っている質問を称揚する。	○自分の考え た質問を発表 することがで きた。(観察) ○二つの観 点から、適切 な質問を決 めるために 友だちと 話し合うこ とができた。 (観察・ワ ークシート)
4 本時のまとめ をする。	○自分の話し合い活動の振り返りをワークシートに 書かせる。 ○次時は、質問を見直したり、分担を決めたり、質 問の練習をしたりすることを知らせる。	

平成23年12月2日（金）5校時目

指導者 板倉 真白美

1 単元名 プロジェクト八十八 ～20年後の藤田の米作りについて考えよう～

2 単元目標

- 三藤田での米作り体験やバケツ稲作りをすることにより、米作りの大変さや収穫の喜びを実感したり、米作りに携わっている人たちへの取材や交流を通して米作りのための工夫や努力に気づいたりして、20年後の藤田の農業について考えることができる。
- 20年後の藤田の米作りについての提案書を作成する活動を通して、相手を意識し表現方法を工夫して伝えることができる。

3 単元について

本校では、毎年5年生が中心となって、学校田でもち米を育てる活動をしている。5年生は、社会科で日本の農業や食料生産についても学ぶので、自分たちの住んでいる米作りのさかんなこの藤田地区の米作りを学習の場にすることによって、課題の設定・情報の収集・まとめ発信という探究的な学習に意欲をもって取り組むことができると考えた。また、藤田中学校区では、「藤田に農業は必要か」というESDの共通のテーマを設定し取り組んでいる。当たり前のように見慣れたこの水田は、栽培する人のいろいろな思いが込められ、地域の人たちの努力に支えられている素晴らしい財産であることに気づくことで、さらに郷土を大切に思う気持ちが深まることを期待している。

1学期はまず、「藤田に米作りは必要か」というテーマで話し合った。全員が「必要である」という考えだったので、「自分達が実際に米作りをしているかもしれない20年後に、藤田の米作りがどうなっているといいと思うか？」と投げかけ、一人ひとりが課題をもった。また、いくつかの種類の種籾が入手できたので、実際にバケツで稲を育てて、稲に来る害虫や病気などについて観察したり、品種による背丈やもみの数の違いを調べたりして課題解決の手がかりとすることにした。

また9月には、調べていく中で生じた疑問を解決するために、実際に米作りに携わっている地域の人たちのところにフィールドワークに出かけ、インタビューをしたり、見学をしたりしていろいろなことを教わった。そこで教わったことを、実際の学校田やバケツ稲の実践で生かすこともできた。しかし一方では、風害や虫の害にあい、米作りの難しさも実感した。これらの経験から20年後の藤田の米作りについて考えをもち、自分なりの提案書を作成させたい。互いの提案の矛盾する点について話し合う中で、考えが深まったり広がったりできるようにさせたい。さらに米作りに携わる地域の人たちが大切にしていることがあることにも気づかせたい。

4 児童の実態

児童は3年生の総合的な学習の時間で、地域のレンコン作りについて学習している。レンコンの栽培法やおいしい食べ方などを教わることで、自分たちの地域には、素晴らしい作物があり、それをつくる名人がいることを学んでいる。

両親や祖父母が米作りをしていたり、1年生の時から学校田で毎年田植えと稲刈りの体験をしてきたりしているため、児童にとって米作りは身近なものである。しかし、知っていたり体験したりしているのは作業のほんの一部分で、実際の米作りの作業の大変さや、お米の品種、藤田のお米の流通などについてはほとんど知らない児童が多い。

また、体験活動に積極的に取り組み、進んで質問したり感想をもったりすることはできるが、課題に対して調べた事実をもとに自分の考えをもったり、友達と意見を交わしたりすることは、経験も少なく苦手な児童が多い。2学期に入り、他教科でグループでの話し合いの機会をできるだけもつようにしてきたが

まだまだである。

提案書の作成は、今回が初めての経験である。1学期に「20年後の藤田の米作りがどうなっているといいか」について自分なりの提案を考えましたが、社会科で食料生産について学習したり、フィールドワークでお話を聞いたりしているうちに、考えが明確になったり、1学期に考えた提案と少し考えが変わってきた児童もいる。

5 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる」ための工夫

- ・「20年後の米作りはどうなっているとよいか」について話し合い、「こうなって欲しい」という自分なりの考えを初めにしっかりとめさせることで、何について調べればよいのか見通しをもって調べ学習に入れるようにする。
- ・パケツ稲を育て、実際に観察や実験をすることで考えの根拠となるようにする。
- ・カードに、活動の内容や自分の考えを足跡として残していくことで、考えを整理できるようにする。
- ・実際に地域にフィールドワークに出かけ、米作りに携わっている方達の生の声を聞くことで、自分なりに考えたよりよい米作りについて考えをもつことができるようにする。
- ・違う考えをもった友達と考えを交流する機会をもち、「よりよい米作り」には様々な考えがあり、矛盾するものがあることに気づくことで、更に自分の考えを見直し、米作りについて深く考えることができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「相手が納得するように主張点をしぼって表現し、伝えることができる」ための工夫

- ・表やグラフ、写真など、様々な表現方法があることを、国語「グラフや表を引用して書こう」や社会「米作りのさかんな地域」で学習し、実際に使ってみる。
- ・提案書を作成するのは初めてなので、書き方のモデルを提示する。
- ・相手意識をもち、わかりやすい提案書を作成することができるように、クラス内だけでなく地域の方や保護者、一藤小、二藤小の友達にも見てもらう機会を設ける。

6 本時の学習について

本時では、これまで調べてきたことを根拠に、自分の考えた「20年後の藤田の米作り」についての提案を4～5人のグループで発表しあう活動をする。

グループは、異なる提案をする児童を意図的に組み合わせでつくり、できるだけ考えが矛盾するように仕組む。それぞれの提案の「メリット」と「デメリット」を洗い出し、視覚的に見えるようにして話し合うことで互いの考えを比べやすくする。デメリットについては、その解決策を考えさせることで、自分の考えを見直し、米作りについて深く考えることができるようにする。また、米づくりに取り組む人たちにはそれぞれが大切にしている想いがあることにも気づかせたい。

8 本時案

目標	友達と自分の提案について意見を交流することで、現在の米作りの抱える問題の難しさに気づき、自分の考えを深めることができる。	
学習活動	教師の支援	評価
1 本時のめあてを確認する。	○本時はグループで友達と意見交換をすることを確認する。	
友達と意見交換をして、「20年後の藤田の米作り」について考えよう。		
2 話し合いの仕方について確認する	○話し合いがスムーズに進むように、『話し合いの進め方』を黒板に掲示しておく。	
3 グループで話し合う。	○意図的に異なる考えの児童を組み合わせることで矛盾点が生じ、解決策を考えなければならなくなるように仕組む。	
例：○無農薬農法で安全 △手間がかかる → ○機械化で作業を楽に △お金がかかる		
	○相手を納得させる提案になるよう、根拠となる資料を示しながら発表させるようにする。 ○話し合いが滞ったり、矛盾点に気づかなかったりする場合は助言者（大学生、教師）が声かけをするようにする。 ○提案のメリットとデメリットを整理しながら話し合うことで、互いの考えを比べやすくする。 ○互いの矛盾点について新たな解決策を話し合わせることで、米作りの抱える問題の難しさや米作りをしている人には大切にしていることがあることに気づけるようにする。 ○グループの話し合いで出てきた意見や新たにできた提案を紹介しあうことで、考えを共有する。	○根拠となる資料を提示しながら発表ができた。 （観察）
4 話し合ったことをクラスで交流する。	○米作りに対していろいろな考えがあり、現在米作りをしている人達にも思いがあることを確認することで、その思いに目が向くようにする。	○友達の見解と自分の考えを比べながら20年後の藤田の米作りについて考えがもてた。
5 本時のまとめをする。	○ワークシートに活動の振り返りと感想を書かせ、本時のまとめをする。	（観察・ワーク）

☆平成23年度 成果と課題

<3年生>

○子どもたちに身近な地域をテーマに取り上げたことは、入門期の子どもたちにとってよかった。意欲をもって学習に取り組むことができた。

○実際に作業場を見学させてもらったり、仕事の一部を体験させてもらったり、育て方・やりがい・苦労・工夫についてインタビューさせてもらったりした。それぞれの作物が、県内外に出荷され評価されていることや、名人たちの思いを知ること、藤田には他地域に誇れるものがあることを実感することができた。

●話し合いの仕方を丁寧に指導する必要がある。総合の時間だけではできないので、国語の時間に話し合いの仕方を習得させておくことが必要。

●同じか違うかの分類は、中学年でできるようにしておきたい。高学年では、さらにそれに理由付けをして説明することができるようにしたい。

●レンコンについて知りたいことを個人で出す→課題別グループを作るとしてはいたが、これでは自分が深く追求したいことが絞り込みにくかった。知りたいことを個人で出した後1度目の見学に行き、レンコンの育ち方などレンコンについてのたまかな知識を共通にもった後、さらに深く調べたいことを決めて自分の課題とすると、調べ学習が深まると思われる。

●今回は、単元の導入時に藤田のレンコンを食べる活動を入れていたが、まず見学に行くことも考えられる。そして、調べ学習を進めていくうちに生じた課題を解決するために、2度3度と名人を訪問すれば、名人とも十分にかかわれると思われる。

<5年生>

○三藤田の米作りと学習をつなげるため、米作りを実験や学んだことを生かす場にした。

例 もみ撒きを農家の方に教わる。興陽高校で教わった鳥よけを試す など
○一人ひとりが自分の課題をもち全員が提案書を書いたことで、課題解決の方法が学べた。

○バケツ稲で実験したことが根拠となったため、実感をともなって提案することができた。

○考えの違う子ども間での意見交換は、とても有意義だった。

○発表する機会を多くもったので、資料の提示の仕方がうまくなった。

○農業後継者の方との意見交換は、いろいろなことがわかったり、農業に対する思いが聞けたりしてよかった。

●何のために提案書を書くのかという意識が低く、ゴールがあやふやになった。藤田の農業の問題点をきちんと把握して、それを解決するための提案書にすれば、より達成感がもてたと思う。

●農業後継者の方との交流は、提案書を作っている中間期がよい。

●藤田という地域に愛着や誇りをもたせるための手立てが、もっと必要である。

おわりに

本校では、「人・社会・自然などとの自分とのつながりに関心をもち、主体的に関わろうとする子どもの育成」という研究テーマのもと、今日まで日々研鑽を重ねてまいりました。

本校の研究の根幹は、持続可能な社会作りの構成概念である～①多様性 ②相互性 ③有限性 ④公平性 ⑤連携性 ⑥責任性の6つの視点に⑦郷土愛を加えた7つの視点～に立脚して、地域・食・農業の学習を通して、自分の生き方を振り返るとともに、環境・福祉・国際理解について主体的に学ぶ中で、自分にできることは何かを一人一人の子どもたちに考えさせることにあります。

この研究集録に示された研究理論をもとに、第三藤田小学校の児童一人一人が、この藤田という地域を愛し、藤田から日本、さらには世界へとその課題追求に主体的に関わっていくことが重要であると考えています。そして、自分自身の生き方を振り返りながら、様々な課題や問題から目をそらすことなく、世界の人々とともに力を合わせ自らの世界を切り拓くことのできる児童の育成に今後とも力を注いでいきたいと考えます。

そのためにも、我々教師一人一人の授業力の向上は避けては通れません。今後も、校内研修のより一層の充実を図るとともに、外部講師の積極的な招聘、研究先進校の優れた実践から学ぶなど一人一人が創意と工夫を凝らしながら自己の力量を高めていかなければならないと思います。

これからも全職員が力を一つにし、第三藤田小学校の子どもたちが、未来を切り拓くために必要な力を身につけさせることができるように、更なる実践を積み重ねていく所存です。

今後とも皆様のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成26年3月

岡山市立第三藤田小学校

教頭 石田 容一

研究同人

<平成25年度>

矢吹 憲策	石田 容一		
板倉 真由美	藤澤 正宏	小野 道子	菅井 憲人
河本 浩行	山本 龍太郎	土佐 九二男	加治 紀江
安倉 典子	加藤 愛	尾島 朋子	大原 順子
友金 明日美	西山 治美	平本 幸恵	藤原 純子
森山 純子	石井 和恵	小田 泰子	本郷 昭光

<平成24年度>

小林 巧	松本 容子	岩井 秀志	光岡 ゆかり
平元 薫	加賀 睦		

